

海外の畜産物の需給動向

牛肉

米国

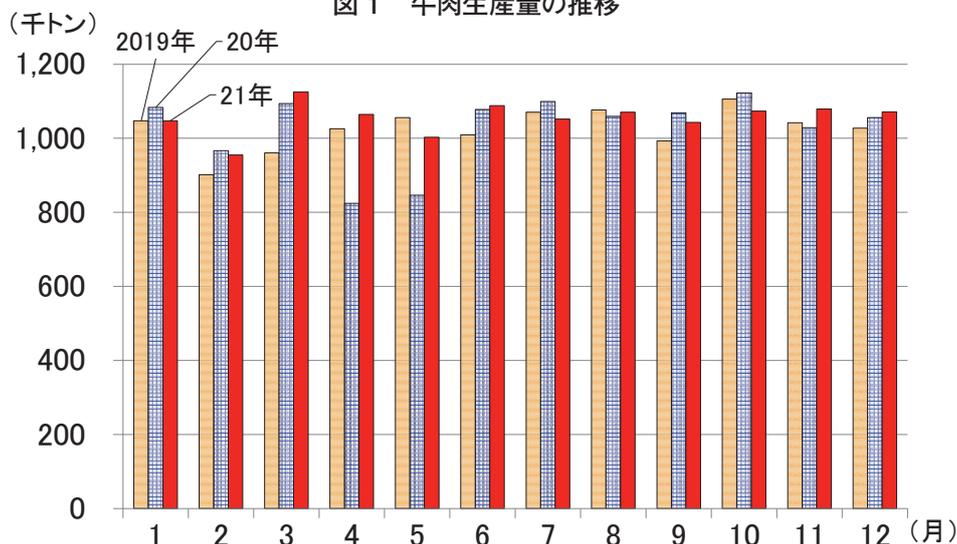
肉用牛の繁殖雌牛飼養頭数、7年ぶりの低水準

12月の牛肉生産量、前年同月比1.5%増

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）が毎月更新する「Livestock & Meat Domestic Data」によると、2021年12月の牛肉生産量は107万1000トン（前年同月比1.5%増）と前年同月をわずかに上回った（図1）。この生産量の増加は、と畜頭数の増加が一因と

されている。これは、米国西部などでの干ばつに伴う牧草の生育状況の悪化などにより、経産牛や種雄牛のと畜が増えたため、同月のと畜頭数は前年同月比1.4%増となった。この結果、21年の年間牛肉生産量は1267万2000トン（前年比2.8%増）と前年からわずかに増加した。なお、同年の1頭当たりの枝肉重量は前年並み（同0.1%減）となった一方、と畜頭数は同3.2%増となった。

図1 牛肉生産量の推移



資料：USDA「Livestock & Meat Domestic Data」
注：枝肉重量ベース。

総飼養頭数、前年比2.0%減

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）が公表した「Cattle」によると、1

月1日時点の牛総飼養頭数は9190万2000頭と前年比2.0%減となった（表1）。内訳を見ると、肉用牛の繁殖雌牛は7年ぶりの低水準となる同2.3%減の3012万5000頭、

肉用繁殖後継牛は同3.3%減の561万2000頭と減少した。現地報道によると、干ばつによる牧草の生育状況の悪化などを受けて、生産者が繁殖後継牛を淘汰した影響が大きいとしている。

一方で、オミクロン株の流行により、タイソンフーズ社や米国JBS社など大手パッカーの労働者の欠勤率が上昇しており、食肉処理場の稼働に支障を来すなどサプライチェーン（供給網）の課題となっている。さ

らに、飼料コストの上昇が生産者の収益を圧迫し、生産者の増頭意欲は限定的なものとなっている。

干ばつに伴う一時的な出荷頭数の増加が一段落した後、牛肉生産量が減少し、今夏以降の牛肉需給がひっ迫傾向となる可能性が高いことから、現地関係者の間では、当面の間は牛肉価格の高騰が続くのではないかとされている。

表1 種類別牛飼養頭数の推移

(単位：千頭)

	2020年	2021年	2022年	前年比 (増減率)
総飼養頭数	93,793	93,790	91,902	▲ 2.0%
繁殖雌牛	40,681	40,286	39,500	▲ 2.0%
肉用牛	31,339	30,844	30,125	▲ 2.3%
乳用牛	9,343	9,442	9,375	▲ 0.7%
未経産牛 ※1	20,024	20,200	19,776	▲ 2.1%
肉用繁殖後継牛	5,809	5,803	5,612	▲ 3.3%
乳用繁殖後継牛	4,684	4,609	4,451	▲ 3.4%
その他	9,532	9,789	9,714	▲ 0.8%
去勢牛 ※1	16,541	16,788	16,580	▲ 1.2%
種雄牛 ※1	2,237	2,211	2,110	▲ 4.6%
子牛 ※2	14,309	14,305	13,936	▲ 2.6%

資料：USDA 「Cattle」

注1：表中の※1は500ポンド（約227キログラム）以上、※2は500ポンド未満。

注2：各年1月1日現在。

1～11月の牛肉輸出量、前年同期比18.3%増

1～11月の牛肉輸出量を主要輸出先別に見ると、USMEFなどの分析では、最大の輸出先である日本向けは、外食需要の低迷から冷凍品が減少した一方、好調な小売需要に支えられた冷蔵品が伸びたことから、全体では34万6400トン（前年同期比0.2%増）となった。2番手の韓国向けについては、米韓自由貿易協定に基づく関税引き下げが追い風となる中、日本と同様、冷凍品が伸び悩む一方、

冷蔵品が大きく増加しており、全体では33万200トン（同17.7%増）となった。

中国向けは、20年2月に発効した米中経済貿易協定第1段階合意以降、豪州産からの代替需要と現地の好調な食肉需要を背景に記録的な水準が続いており、22万2800トン（同5.3倍）と大幅に増加した。4番手のメキシコ向けは、11月は前年同月実績が多かったことから、その反動で大幅に下回ったものの、13万600トン（同7.0%増）と前年同期をかなりの程度上回った（表2、図2）。

表 2 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：千トン)

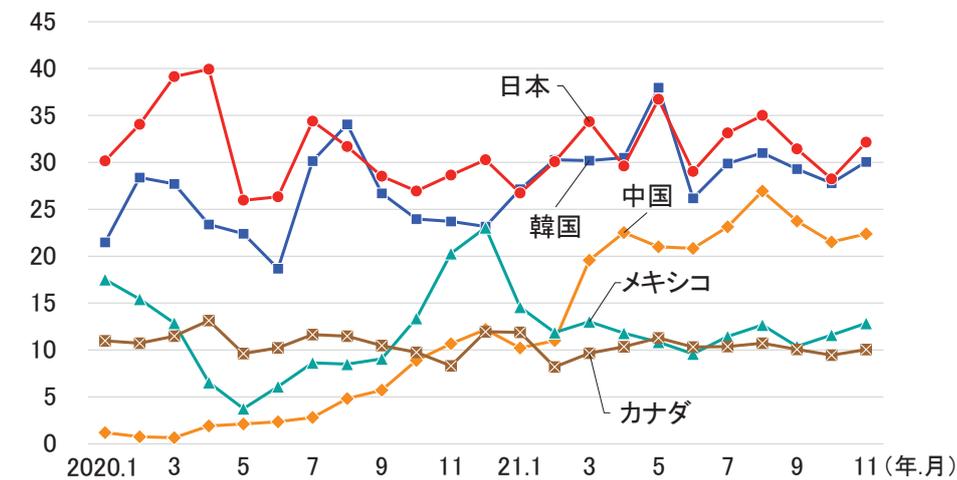
	2020年 11月	2021年 11月	前年同月比 (増減率)	2021年 (1~11月)	前年同期比 (増減率)	シェア
韓国	23.7	30.0	26.7%	330.2	17.7%	23.0%
中国	10.7	22.4	109.5% (約 2.1 倍)	222.8	432.6%	15.5%
メキシコ	20.3	12.9	▲ 36.7%	130.6	7.0%	9.1%
カナダ	8.3	10.0	21.0%	112.3	▲ 4.7%	7.8%
その他	34.0	27.7	▲ 18.5%	290.7	▲ 4.1%	20.3%
合計	125.6	135.2	7.6%	1,433.0	18.3%	100.0%

資料：USDA [Livestock and Meat International Trade Data]

注1：枝肉重量ベース。

注2：中国は香港を含まない。

図 2 主要輸出先別牛肉輸出量の推移



資料：USDA [Livestock and Meat International Trade Data]

注：枝肉重量ベース。

(調査情報部 河村 侑紀)

豪州

2021年の牛肉輸出量は36年ぶりの低水準

肉牛生体取引価格、過去最高を記録も軟化傾向

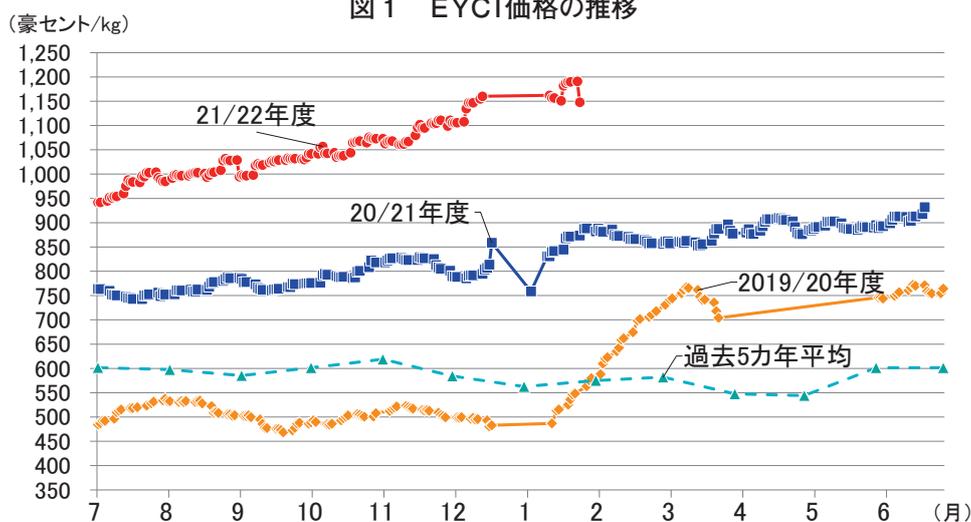
肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、年明けに一段高となり1月24日には過去最高の1キログラム当たり1191豪セント（989円：1豪ドル

＝83円^(注1)）を記録したが、その後は下落に転じている（図1）。

(注1) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2022年1月末TTS相場。

現地報道によると、最近の肉牛価格の動向は、クイーンズランド州の家畜市場における

図1 EYCI価格の推移



資料：MLA

注1：年度は7月～翌6月。

注2：EYCI価格は、東部3州（クィーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

注3：2020年3月26日～6月1日の間は、新型コロナウイルス感染症の影響でEYCI価格の集計を実施していない。

牧草肥育業者の取引状況を反映しているとしている。同州の生産者団体であるアグフォースの肉牛委員会は、肉牛価格が高騰する中、農家における利益確保に向けた販売意欲の高まりなどを背景に、牛群再構築にはまだ一定の時間がかかると述べている。また、畜産調査会社であるトーマスエルダーマーケットツは、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のオミクロン株の流行による食肉加工施設の稼働率低下の影響や、ラニーニャ現象による降雨で牧草の生育が良好なことによる肥育農家からの牛の需要の高さから、今後、肉牛価格は横ばい状態での推移が見込まれると述べている。

牛群再構築とオミクロン株の影響でと畜頭数は低位で推移

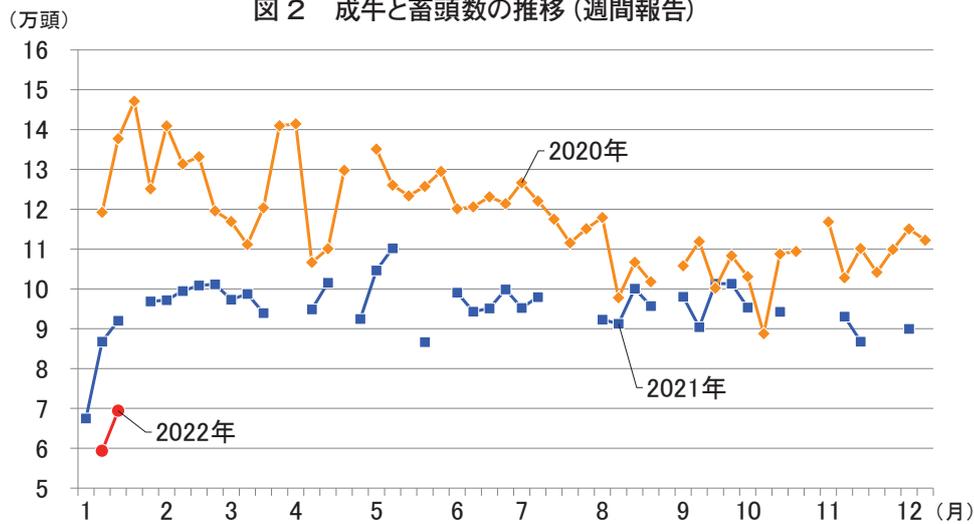
牛群再構築が進められる中で、と畜頭数は低位で推移してきたが、COVID-19のオミ

クロン株の拡大の影響により、食肉処理施設やサプライチェーンでは、2022年の年明けから従業員の自宅隔離の増加などで労働力が不足したため、さらに減少し、同年1月の週間と畜頭数は前年よりも3割程度低い水準で推移している(図2)。このため、22年1月上中旬には、大手小売店ではサプライチェーンの混乱による品不足により、牛赤身肉の購入を1人当たり2点までに制限するなどの事態が生じた。その後、豪州政府の隔離規制の変更(緩和)などを受けて食肉加工施設やサプライチェーンの稼働が徐々に回復してきており、1月下旬時点では小売店での購入制限は解消されている。

2021年の牛肉輸出量、主要国では韓国を除き大きく減少

豪州農業・水・環境省(DAWE)によると、21年12月の牛肉輸出量は7万7058トン(前

図2 成牛と畜頭数の推移(週間報告)



資料：MLA Livestock Weekly

注1：成牛のみ（仔牛は含まない）。

注2：3月～4月頃の頭数減は、イースター休暇に伴うと畜場休業によるもの。

年同月比9.4%減) とかなりの程度減少した(表)。また、同年の累計でも90万トンを下回る88万7679トン(前年比14.6%減)とかなり大きく減少した。現地報道によると、21年は牛群再構築が本格化して牛肉生産量が減少したことや、中国との政治的緊張を背景とした同国向け輸出量の減少などにより、牛肉輸出量は36年ぶりの低水準になったとしている。

輸出先別に見ると、最大の輸出先である日本向けは1万6819トン(前年同月比25.5%減)と大幅に減少し、暦年累計でも23万3818トン(前年比13.2%減)となった。

米国向けは1万5277トン(前年同月比0.5%増)とわずかに増加したものの、暦年累計では14万5025トン(前年比31.5%減)と大幅に減少した。現地報道によると、これは年間を通して牛群再構築が進む中、農家での雌牛保留意欲が高まり、雌牛のと畜頭数が減少したことで、米国向けに輸出されるひき肉など加工用牛肉の供給に影響を及ぼしたことが一因としている。

韓国向けは、セーフガードが発動したことにより1万5181トン(前年同月比7.4%減)とかなりの程度減少したが、暦年累計では16万5053トン(前年比2.6%増)とわずかに増加した。

中国向けは1万3805トン(前年同月比8.9%減)とかなりの程度減少し、暦年累計では14万8357トン(前年比24.6%減)と大幅に減少した。現地報道によると、中国は豪州からの輸入に代わり、南米などからの輸入を増やしてきたが、最近ではアルゼンチンの牛肉輸出規制^(注2)やブラジルの非定型BSE発生事例を受け、牛肉の輸入先の多様化を図っているとしている^(注3)。なお、1月末時点で対中輸出認定施設のうち10施設が輸出停止となっている。

(注2) 海外情報「アルゼンチン、牛肉輸出制限措置を追加緩和」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003065.html)を参照されたい。

(注3) 『畜産の情報』2022年1月号「堅調な需要から生産量、輸入量ともに増加」(https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_001928.html)を参照されたい。

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

	2020年 12月	2021年 12月	前年同月比 (増減率)	2021年	前年比 (増減率)
				(1~12月)	
日本	22,575	16,819	▲ 25.5%	233,818	▲ 13.2%
米国	15,201	15,277	0.5%	145,025	▲ 31.5%
韓国	16,391	15,181	▲ 7.4%	165,053	2.6%
中国	15,149	13,805	▲ 8.9%	148,357	▲ 24.6%
東南アジア	6,516	6,883	5.6%	95,419	1.8%
中東	2,792	2,596	▲ 7.0%	30,941	5.2%
EU	393	315	▲ 19.9%	7,769	▲ 8.9%
その他	6,028	6,182	2.5%	61,295	▲ 11.4%
輸出量合計	85,044	77,058	▲ 9.4%	887,679	▲ 14.6%

資料：DAWE

注1：船積重量ベース。

注2：東南アジアは、フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシアの合計。

注3：中東は、イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦を構成する七つの首長国のうち四つの首長国(アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラース・アル=ハイマ)の合計。

(調査情報部 国際調査グループ)

N Z

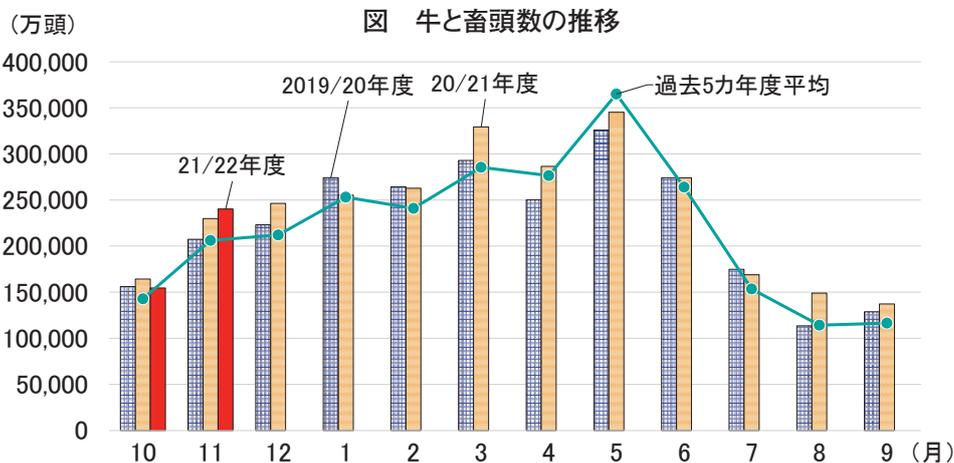
2021/22年度の牛肉生産量、輸出量ともに前年度を下回る見通し

2021年11月の牛と畜頭数、牛肉価格の上昇により増加

ニュージーランド統計局 (Stats NZ) によると、2021年11月の牛と畜頭数は24万頭 (前年同月比4.5%増) とやや増加し、直近5年間の同月実績では最大となった (図)。

これは、高水準で推移する同国内の牛肉価格などが背景にあるとみられる。

一方、2021/22年度 (10月~翌9月) の10~11月の累計を見ると、前年同期並みとなっている。牛と畜頭数の内訳を見ると、去勢牛(12万頭、前年同期比3.0%増)、雄牛(9万1000頭、同2.6%増)が増加した一方、



資料：Stats NZ

注：年度は10月~翌9月。

未經産牛（10万6000頭、同0.7%減）、経産牛（7万7000頭、同5.5%減）が減少している。これは、生産者乳価が高い水準で推移したことで酪農部門での保留傾向が強まったことが影響している。

2021年11月の牛肉輸出量、日本向けは増加

Stats NZによると、2021年11月の牛肉輸出量は3万3573トン（前年同月比1.8%増）とわずかに増加している（表1）。内訳は、冷蔵牛肉が3814トン（同5.8%増）、冷凍牛肉が2万9796トン（同1.4%増）となった。

輸出先別に見ると、最大の輸出先である中国向けは1万5012トン（同3.5%増）とやや増加した。また、日本向けは2455トン（同32.5%増）と大幅に増加した。これは、豪州産牛肉の生産量の減少や価格の高騰などにより、冷凍品を中心にNZ産牛肉への引き合いが強まったためとみられる。一方、米国向けは8057トン（同11.4%減）とかなり大きく減少した。米国農務省（USDA）によると、米国の牛肉輸入は、中国向け輸出が停止していたブラジル産の割合が増加傾向にあるとしている^{（注）}。

表1 輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

	2020年 11月	2021年 11月	前年同月比 (増減率)	2021/ 22年度 (10~11月)	
				前年同期比 (増減率)	
中国	14,506	15,012	3.5%	26,351	7.9%
冷蔵	1,118	1,193	6.7%	1,910	6.0%
冷凍	13,388	13,819	3.2%	24,441	8.0%
米国	9,096	8,057	▲ 11.4%	15,196	▲ 37.8%
冷蔵	382	648	69.9%	1,129	▲ 37.3%
冷凍	8,714	7,409	▲ 15.0%	14,066	▲ 37.8%
台湾	1,082	1,043	▲ 3.6%	2,058	▲ 4.6%
冷蔵	97	48	▲ 49.8%	48	▲ 67.5%
冷凍	986	995	1.0%	2,009	0.0%
日本	1,854	2,455	32.5%	4,296	30.4%
冷蔵	660	660	▲ 0.0%	1,015	▲ 20.4%
冷凍	1,193	1,795	50.5%	3,281	62.4%
韓国	1,486	1,533	3.1%	2,890	6.7%
冷蔵	4	0	▲ 100.0%	2	▲ 55.5%
冷凍	1,483	1,533	3.4%	2,888	6.8%
カナダ	963	598	▲ 37.9%	1,052	▲ 47.6%
冷蔵	53	82	55.6%	98	0.4%
冷凍	910	516	▲ 43.3%	954	▲ 50.0%
その他	3,990	4,875	22.2%	4,716	26.9%
冷蔵	1,292	1,182	▲ 8.5%	1,278	▲ 0.4%
冷凍	2,699	3,730	38.2%	3,476	52.3%
合計	32,977	33,573	1.8%	61,035	6.1%
冷蔵	3,605	3,814	5.8%	6,289	0.7%
冷凍	29,372	29,796	1.4%	54,783	7.1%

資料：Stats NZ
注1：船積重量ベース。
注2：年度は10月～翌9月。

(注) なお、中国向け輸出停止措置は、2021年12月15日に解除されている。『畜産の情報』2022年2月号「2021年1～11月の牛肉輸出量、前年同期を下回って推移」(https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_001966.html)を参照されたい。

2021/22年度の牛と畜頭数、去勢牛および未經産牛を中心に減少する見込み

ビーフ・アンド・ラム・ニュージーランド(BLNZ)が公表した「New Season Outlook2021-22」によると、2021/22年度の輸出向け牛と畜頭数は、268万頭(前年度比5.1%減)とやや減少が見込まれている(表2)。内訳を見ると、雄牛を除いてい

ずれも減少しており、特に去勢牛と未經産牛は、前年度の増加の反動から、かなりの減少が見込まれている。

この結果、牛肉生産量は68万2000トン(同5.1%減)とやや減少が見込まれている。また、牛肉輸出量(船積重量ベース)は、牛肉生産量の減少により46万8000トン(同5.1%減)と同程度の減少が見込まれている。

なお、BLNZは、世界的な牛肉需給について、今後、主要輸出先である中国の牛肉需要が緩和する可能性があるとしているほか、COVID-19による物流停滞などから供給面でのひっ迫が見込まれ、不透明な状況にあるとしている。

表2 輸出向け牛と畜頭数などの見通し

	単位	2018/19年度	2019/20年度	2020/21年度	2021/22年度	
					年度	前年度比
と畜頭数	千頭	2,612	2,674	2,823	2,680	▲ 5.1%
うち去勢牛	千頭	565	588	682	613	▲ 10.2%
未經産牛	千頭	474	491	559	499	▲ 10.8%
雄牛	千頭	555	546	553	558	1.0%
経産牛	千頭	1,018	1,048	1,029	1,010	▲ 1.9%
生産量	千トン	662	679	719	682	▲ 5.1%
うち去勢牛	千トン	177	184	213	192	▲ 9.9%
未經産牛	千トン	115	120	135	121	▲ 10.2%
雄牛	千トン	166	163	167	168	0.9%
経産牛	千トン	204	212	205	202	▲ 1.6%
1頭当たり枝肉重量	キログラム	251	254	255	255	0.0%
輸出量	千トン	453	465	493	468	▲ 5.1%
輸出金額	百万NZドル	3,377	3,810	3,640	3,371	▲ 7.4%
輸出単価	NZドル/トン	7,451	8,186	7,382	7,205	▲ 2.4%

資料：BLNZ

注1：2020/21年度の数値は速報値。2021/22年度は予測値。

注2：生産量は枝肉重量ベース。輸出量は船積重量ベース。

(調査情報部 廣田 李花子)

豚 肉

カナダ

11月の豚肉輸出量、米国向け増も中国向け大幅減で減少

21年の生体豚輸出頭数、前年比13.9%増の見込み

米国農務省海外農業局（USDA/FAS）の「Livestock and Products Annual (Canada)」によると、2021年のカナダの豚産子数は2975万頭（前年比0.7%増）と前年をわずかに上回った（表1）。17年の豚流行性下痢（PED）の流行以来、生産者による衛生対策の強化で繁殖成績が向上し、産子数も増加傾向で推移していることから、

22年も安定して推移するとみている。

カナダにとって最大の生体豚貿易相手国である米国では、飼料高や豚繁殖・呼吸障害症候群（PRRS）などの影響を受けて豚飼養頭数が減少した。このため、21年のカナダの生体豚輸出頭数は同13.9%増と見込まれている。なお、同年は、大手食肉企業であるオリメル社のケベック州の大規模工場で、4カ月間にわたり実施されたストライキの影響により出荷待ちの肥育豚が滞留したことで、米国向け肥育豚の輸出が増加したことも一因と

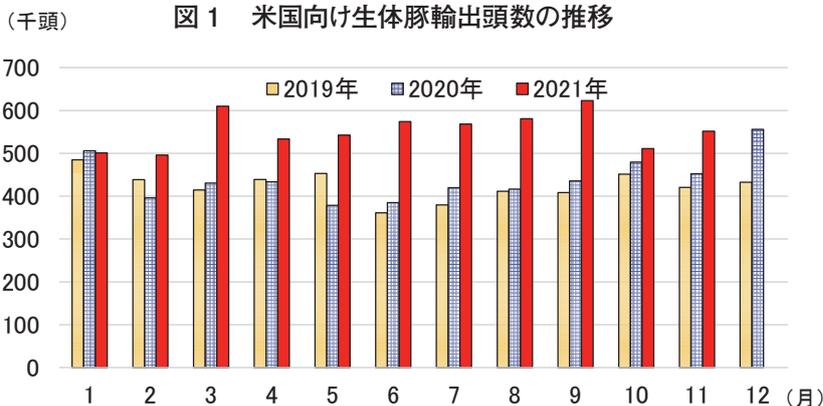
表1 生体豚需給の推移

（単位：千頭）

	2019年	2020年	2021年 (見込)	前年比 (増減率)
期首飼養頭数	13,975	13,970	14,025	0.4
産子数	28,352	29,546	29,750	0.7
輸入頭数	6	6	4	▲ 33.3
と畜頭数	21,841	22,717	22,950	1.0
輸出頭数	5,113	5,311	6,050	13.9
死亡頭数	1,409	1,469	1,379	▲ 6.1
期末飼養頭数	13,970	14,025	13,400	▲ 4.5

資料：カナダ統計局、2021年はUSDA

図1 米国向け生体豚輸出頭数の推移



資料：カナダ統計局
注：HSコードは0103。

みられている（図1）。

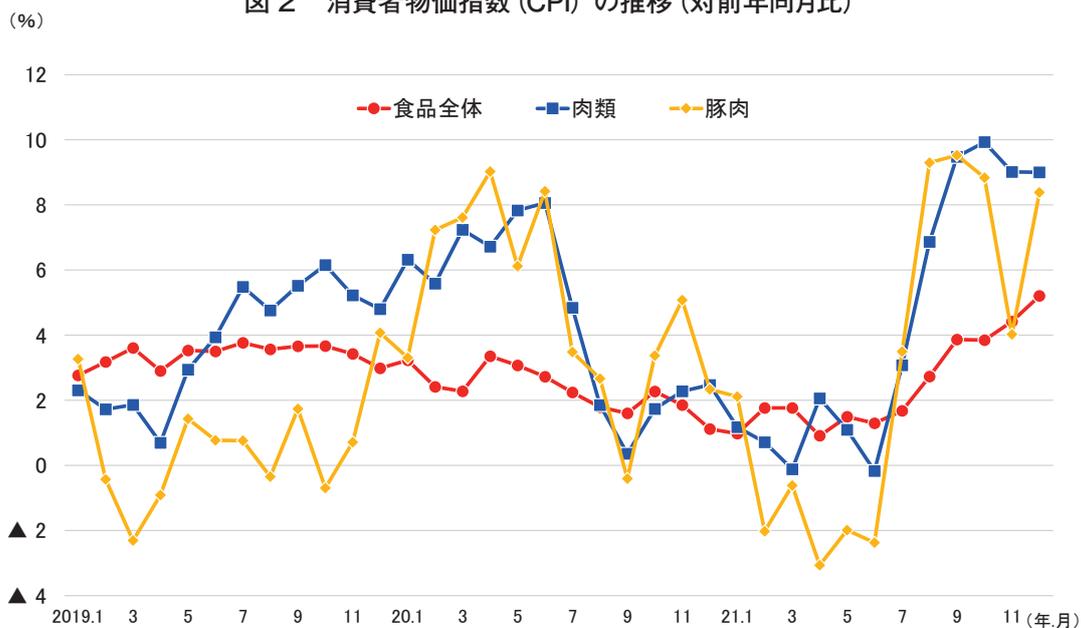
21年の豚と畜頭数は、生体豚の輸出頭数が増加する一方で、産子数の増加や死亡頭数の減少により、2295万頭（同1.0%増）と前年を上回ると見込まれている。なお、国内外の豚肉需要が底堅く推移していることなどから、オリメル社は21年9月にケベック州の別の工場の処理能力を大幅に増強している。

21年12月の豚肉価格は前年同月比8.4%高

コロナ禍での供給面の制約など複合的な要

因により世界各地で急速な物価上昇が起きている。特にカナダの隣国である米国では、食肉の価格上昇が顕著になっている。カナダ統計局が発表した消費者物価指数（CPI）によると、カナダでも21年の夏以降、食品全体の物価上昇率が高まっており、12月には前年同月比5.2%高となった。このうち、肉類は同9.0%高、うち豚肉は同8.4%高と食品の中でも上昇率が高くなっている（図2）。CPIの上昇などを受けてカナダ中央銀行は、22年3月の利上げを示唆しており、今後の金融政策も注目されている。

図2 消費者物価指数（CPI）の推移（対前年同月比）



資料：カナダ統計局

11月の豚肉輸出量、前年同月比8.7%減

カナダ統計局によると、21年11月の豚肉輸出量は9万2000トン（前年同月比8.7%減）と前年同月をかなりの程度下回った（表2、図3）。輸出先別に見ると、中国向けは、中国国内の豚肉生産の回復に伴い輸入需要が落ち込んでいることから1万1300トン（同

65.9%減）と前年同月の3分の1の水準にまで減少した。豚肉生産量が減少傾向にある米国向けは3万1900トン（同52.9%増）と大幅に増加し、メキシコ向けについても同国経済の回復傾向に伴う好調な豚肉需要から1万4900トン（同59.1%増）と大幅に増加した。それでも、中国向けの減少幅が大きかったことで、全体では前年同月を下回っている。

表 2 輸出先別豚肉輸出量の推移

(単位：千トン)

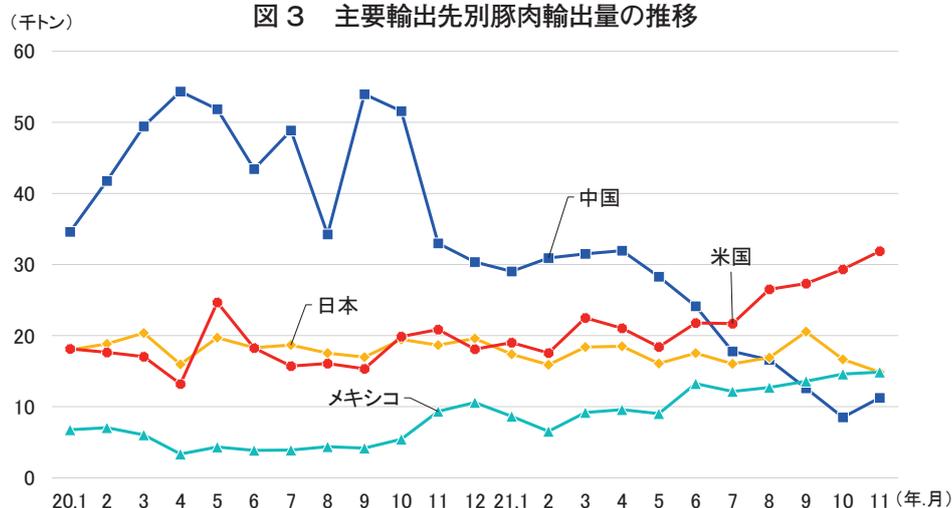
	2020年 11月	2021年 11月	前年同月比 (増減率)	2021年	前年同期比 (増減率)	シェア
				1～11月		
米国	20.8	31.9	52.9%	257.0	30.6%	24.7%
中国	33.0	11.3	▲65.9%	242.6	▲51.2%	23.3%
日本	18.7	14.9	▲20.2%	188.8	▲6.7%	18.2%
メキシコ	9.3	14.9	59.1%	124.1	111.8%	11.9%
フィリピン	3.4	3.3	▲2.1%	93.4	247.7%	9.0%
韓国	3.8	3.9	1.4%	38.4	40.7%	3.7%
ベトナム	1.6	2.0	24.7%	18.7	▲3.7%	1.8%
その他	10.2	10.0	▲1.9%	76.7	32.8%	7.4%
合計	100.8	92.0	▲8.7%	1,039.7	▲4.3%	100.0%

資料：Statistics Canada

注1：HSコード0203。

注2：製品重量ベース。

図 3 主要輸出先別豚肉輸出量の推移



資料：Statistics Canada

注1：HSコード0203。

注2：製品重量ベース。

(調査情報部 河村 侑紀)

チリ

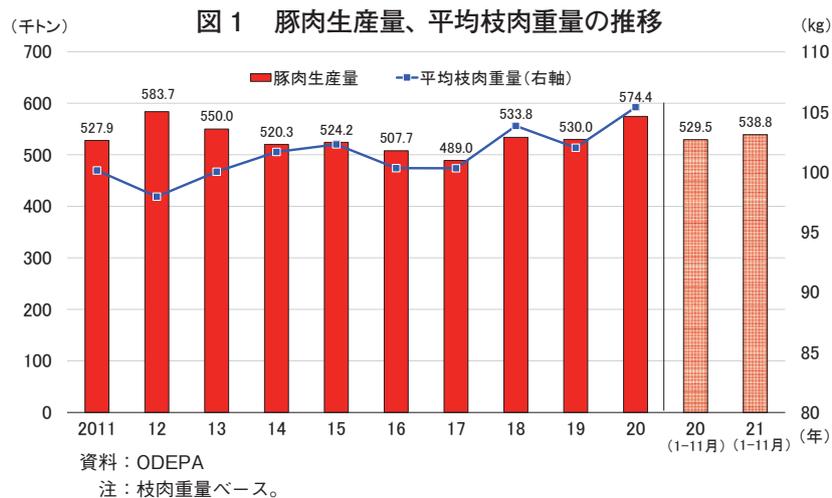
豚肉輸出量、2021年は減少に転じる見込み

2021年1～11月の豚肉生産量は前年同期比1.8%増

チリ農業省農業政策・調査局（ODEPA）によると、2021年1～11月の豚肉生産量（枝肉重量ベース）は、53万8802トン（前年同期比1.8%増）と前年同期をわずかに上

回った（図1）。

近年のチリの豚肉生産量は、国内最大の養豚企業であるアグロスーパー社の母豚15万頭規模の農場が環境問題により13年3月に閉鎖に追い込まれて以降、17年まで減少傾向で推移してきた。特に17年は、主に農場の閉鎖によると畜頭数の減少から、直近10



年間で生産量が最も少なかった。しかし、18年以降は増加傾向に転じている。これは、環境問題による生産への制約がある中、養豚企業による繁殖成績や飼料要求率の改善に加え、大手企業による種豚の遺伝的改良などの取り組みが行われたことで、生産の効率化や平均枝肉重量の増加が図られたためとみられる。1頭当たりの平均枝肉重量の推移を見ると、17年の100.3キログラムに対し、20年には105.4キログラムに増加しており、これらの取り組みがこの間の豚肉生産量の増加に大きく寄与している。

2021年1～11月の豚肉輸出量、中国国内の豚肉需給緩和により前年同期比8.1%減

2021年1～11月の豚肉輸出量（冷蔵・冷凍）^{（注）}は、19万5075トン（前年同期比8.1%減）と前年同期よりかなりの程度減少した（表1）。年間輸出量は、18～20年に3年連続で過去最高を更新したが、21年は減少に転じるとみられる。特に21年5月以降は前年同月比で10%以上下回っており、年後半にかけて減少幅が拡大した。

輸出先別に見ると、最大の中国向けは、

12万4519トン（同19.7%減）と前年までの増加傾向から大幅な減少に転じた。同国向け輸出量は、中国におけるアフリカ豚熱の発生による同国産豚肉の代替需要により19年後半以降加速し、18～20年の間に3.9倍に急増した（図2）。しかし、その後は中国の豚肉生産が回復し、輸入需要が減少したことから、21年5月以降、同国向け輸出量は前年同月を大幅に下回って推移している。輸出単価についても、需給の緩和を反映して21年5月以降急速に下落し、11月には5月と比べて半額以下（同56.2%安）となった。

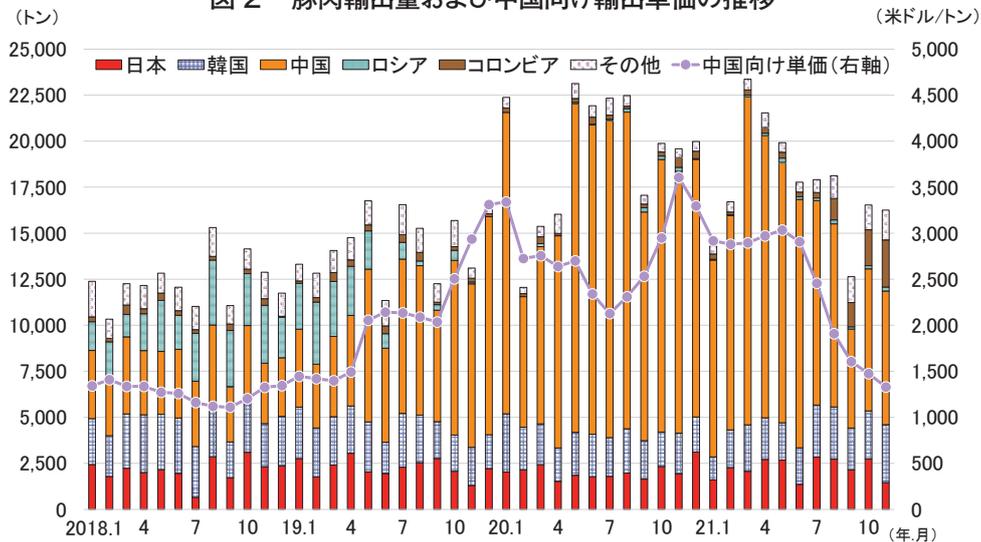
韓国および日本向け輸出量は、それぞれ同3.8%増、同14.8%増と前年同期を上回っている。両国向けは、ロインやバラ、肩ロースなどの部位を中心に毎月1000～2000トン台の水準で比較的安定して輸出されている。このほか、コロンビア向けが前年同期比で3.2倍になったほか、コスタリカやペルーといった中南米向けが増加している。

表1 豚肉輸出の推移

区分	2020年			2020年(1~11月)			2021年(1~11月)			前年同期比(増減率)		
	輸出量 (トン)	輸出額 (千米ドル)	単価 (米ドル/トン)	輸出量 (トン)	輸出額 (千米ドル)	単価 (米ドル/トン)	輸出量 (トン)	輸出額 (千米ドル)	単価 (米ドル/トン)	輸出量	輸出額	単価
中国	169,143	467,377	2,763	155,149	421,257	2,715	124,519	319,898	2,569	▲19.7%	▲24.1%	▲5.4%
韓国	26,729	107,763	4,032	24,830	99,562	4,010	25,784	133,553	5,180	3.8%	34.1%	29.2%
日本	24,517	117,569	4,795	21,401	102,209	4,776	24,566	119,013	4,845	14.8%	16.4%	1.4%
コロンビア	3,181	4,478	1,408	2,782	3,915	1,407	8,877	20,024	2,256	219.1% (約3.2倍)	411.5% (約5.1倍)	60.3%
ロシア	1,252	2,154	1,720	1,205	2,084	1,729	1,582	2,976	1,881	31.3%	42.8%	8.8%
その他	7,393	25,553	3,456	6,864	24,008	3,498	9,747	34,143	3,503	42.0%	42.2%	0.1%
合計	232,215	724,893	3,122	212,231	653,035	3,077	195,075	629,607	3,228	▲8.1%	▲3.6%	4.9%

資料：ODEPA
 注1：HSコード0203。
 注2：製品重量ベース。

図2 豚肉輸出量および中国向け輸出単価の推移



資料：ODEPA
 注1：HSコード0203。
 注2：製品重量ベース。

2021年1～11月の輸入量、前年同期を大幅に上回る

2021年1～11月の豚肉輸入量（冷蔵・冷凍）^(注)は、13万2232トン（前年同期比56.1%増）と大幅に増加した（表2、図3）。これは20年3月、COVID-19の拡大によりチリ国内に大災害事態宣言が発出され、外食店舗の閉鎖や移動制限により需要が大幅に減少したものの、8月以降、規制の緩和や政府支援策による消費者の購買力の回復などによ

り需要が回復し、需給が一時的にひっ迫したためとみられる。

輸入先別に見ると、最大のブラジルは、5万6895トン（同49.2%増）と大幅に増加する一方、それに次ぐ米国は、2万9438トン（同26.3%減）と大幅に減少した。両国を合わせた輸入量は、20年まで全体の9割程度を占めていたが、21年（1～11月）は、65.3%に低下した。一方、米国に代わりドイツからの輸入量が同95.3倍の2万9437トンと大幅に増加した。これは、20年9月、

ドイツでのアフリカ豚熱の確認により、中国が同国からの豚肉輸入停止措置を講じた結果、他の輸出先に仕向けられたためとみられる。ドイツからの豚肉の輸入単価は米国より安く、20年12月以降、月間2000~3000トン台の豚肉が輸入されている。このほか、スペインからの輸入量も同13.4倍の2933トンと大幅に増加した。

チリでは、ブラジル産などの安価な輸入品を国内消費向けとして加工品に仕向け、高級部位を積極的に輸出するという動きが進んでいるといわれている。今後は、環境問題により生産拡大が限られる中、輸出市場のニーズや国内消費の動向に応じて輸入が継続するものとみられる。

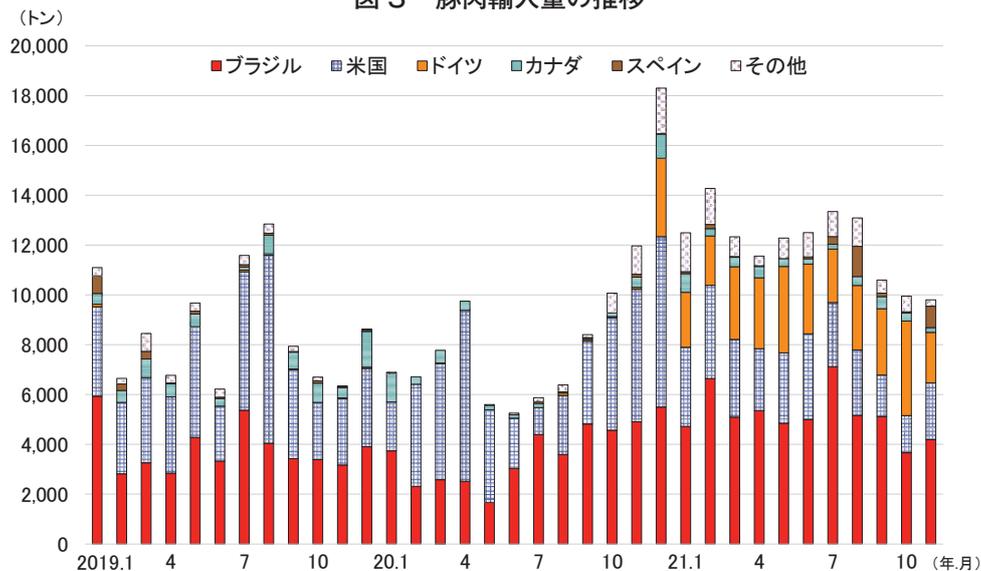
(注) チリの豚肉輸出入量および輸入量のほとんどは冷凍品が占めている。

表 2 豚肉輸入の推移

区分	2020年			2020年(1~11月)			2021年(1~11月)			前年同期比(増減率)		
	輸入量(トン)	輸入額(千米ドル)	単価(米ドル/トン)	輸入量(トン)	輸入額(千米ドル)	単価(米ドル/トン)	輸入量(トン)	輸入額(千米ドル)	単価(米ドル/トン)	輸入量	輸入額	単価
ブラジル	43,615	104,671	2,400	38,121	90,223	2,367	56,895	143,569	2,523	49.2%	59.1%	6.6%
米国	46,785	130,535	2,790	39,941	111,943	2,803	29,438	98,144	3,334	▲26.3%	▲12.3%	19.0%
ドイツ	3,456	9,070	2,625	309	685	2,217	29,437	76,387	2,595	9,426.5% (約95.3倍)	11,050.3% (約111.5倍)	17.0%
カナダ	4,433	10,095	2,277	3,462	8,186	2,364	3,968	9,548	2,406	14.6%	16.6%	1.8%
スペイン	244	682	2,797	219	607	2,772	2,933	8,485	2,893	1,239.3% (約13.4倍)	1,297.8% (約14.0倍)	4.4%
その他	4,463	12,889	2,888	2,643	7,717	2,920	9,561	25,656	2,683	261.7%	232.5%	▲8.1%
合計	102,996	267,942	2,601	84,695	219,361	2,590	132,232	361,789	2,736	56.1%	64.9%	5.6%

資料：ODEPA
注1：HSコード0203。
注2：製品重量ベース。

図 3 豚肉輸入量の推移



資料：ODEPA
注1：HSコード0203。
注2：製品重量ベース。

(調査情報部 井田 俊二)

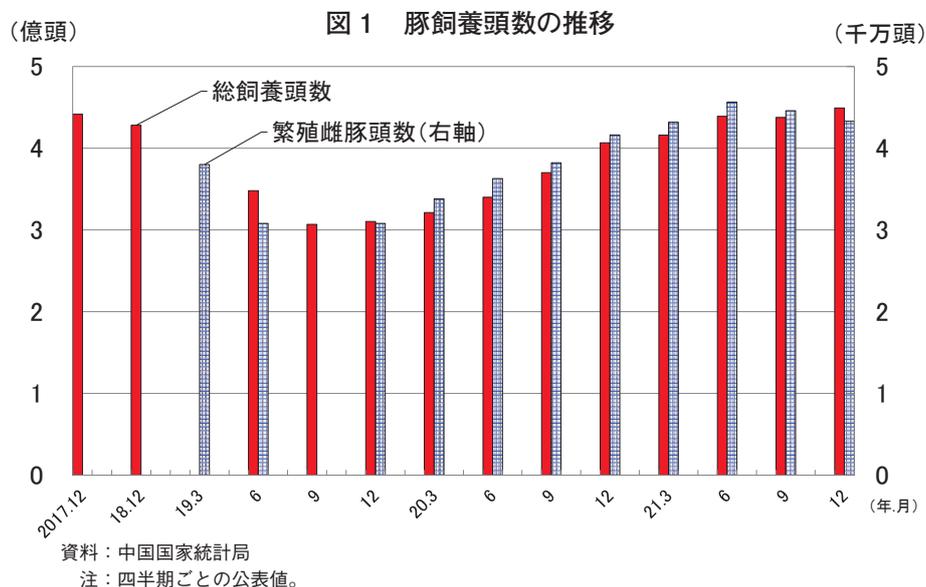
中国

と畜頭数および豚肉生産量は前年比増、輸入量は大幅減

豚飼養頭数は増加も繁殖雌豚頭数は減少傾向が続く

中国国家统计局によると、2021年末時点の豚総飼養頭数（四半期ごとに公表）は、前回公表時（同年9月末）に比べ2.6%増の4億4922万頭、うち、繁殖雌豚頭数は同2.9%

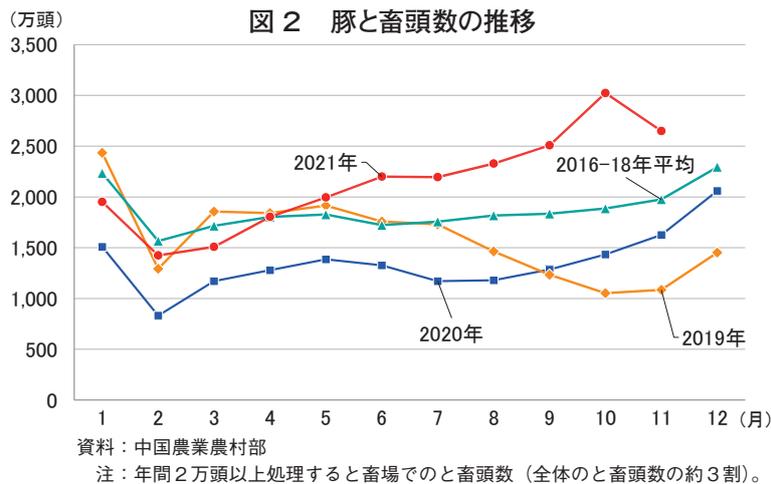
減の4329万頭となった（図1）。アフリカ豚熱の発生により落ち込んだ豚飼養頭数は、その後急速に回復し、発生前とほぼ同水準に達している。また、繁殖雌豚頭数は前回公表時と同様、減少傾向が続いているものの、総飼養頭数は再び増加に転じている。



2021年の豚と畜頭数と豚肉生産量は引き続き高水準で推移

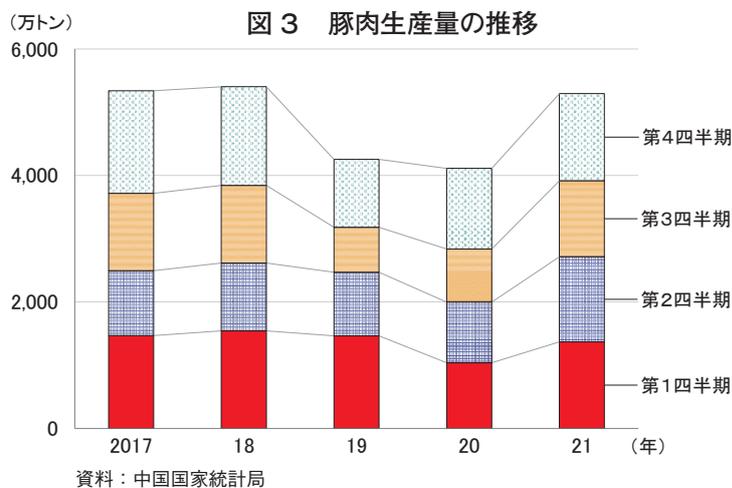
中国農業農村部によると、豚と畜頭数は引き続き前年同月を上回る水準で推移しており、2021年11月は前年同月比62.9%増の2649万頭と前年を大幅に上回った（図2）。

今冬は豚肉価格が近年に比べ安価で推移していることから（後述）、春節に向けた冬場の豚肉の塩漬けや薫製などのハム、ソーセージ製造が例年よりも早く行われたとされており、これが10、11月のと畜頭数増加の一因になっているとみられる。



豚と畜頭数と同様に豚肉生産量も引き続き前年を上回った。中国国家统计局によると、21年の豚肉生産量は前年比28.8%増の5296万トンとなった（図3）。21年9月に

繁殖雌豚頭数が減少に転じたこと、妊娠から出荷まで10カ月以上かかることを考慮すると、と畜頭数および豚肉生産量の本格的な減少は22年第3四半期以降と推測される。



豚肉価格、子豚価格ともに10月に反転も、低水準で推移

2021年は春先から豚肉価格および子豚価格は下落傾向にあったが、中央政府による同年4回目の豚肉の買い入れおよび保管が実施された10月^(注1)に底を打ち、それ以降は少しずつ上昇に転じている。12月の豚肉価格は前月比3.5%高の1キログラム当たり28.4元（523円：1元=18.4円^(注2)）、子豚価格

は同6.5%安の同28元（515円）となった（図4）。

10月以降の豚肉価格上昇は、春節向けの塩漬けをはじめとした加工品製造が前倒しされたことによる季節的な消費需要に下支えされたものとされるが、1月に入ると例年の春節前需要を見越した出荷が行われたため、再度、下落傾向で推移しており、例年需要が落ち着いてくる春節以降の価格推移が懸念される。中国国国家発展改革委員会によると、21

年11月～22年1月上旬まで、豚/穀物比^(注3)は6：1以上で推移していたものの、中旬は「政府の豚肉備蓄調整メカニズムを改善し、豚肉市場の供給と価格の安定化を図る準備計画」^(注4)の第三級および第二級警報水準に当たる5：1台で推移している。

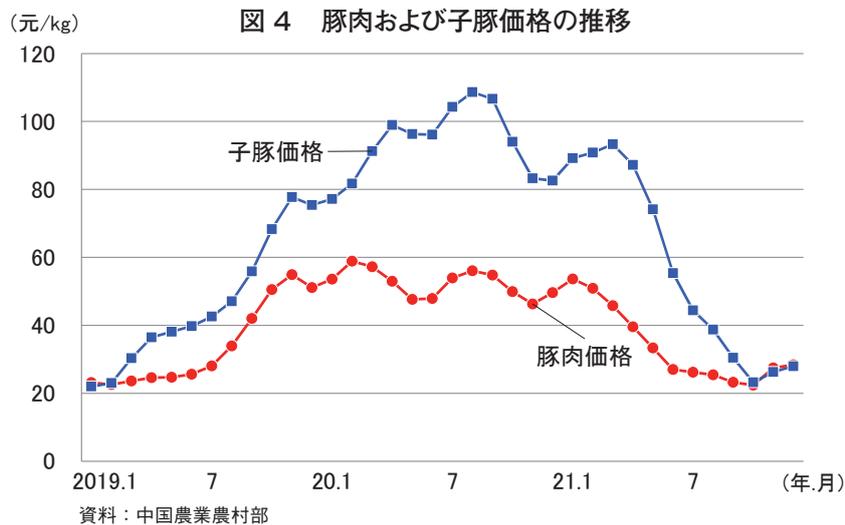
現地報道によると、10月以降の一時的な豚肉価格の上昇に伴い子豚価格も一時的に上昇に転じているが、今後の豚肉価格の上昇を見込みにくいこと、飼養コストの増加、冬場の疾病リスクの増大などにより、子豚需要は様子見の状況とされている。

(注1) 海外情報「豚肉価格低迷で国家備蓄による買入・保管を再度実施（中国）」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003064.html)を参照されたい。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2022年1月末TTS相場。

(注3) 政府による養豚生産者の収益性の指標値。算出方法は、1キログラム当たり生体豚出荷価格/1キログラム当たりトウモロコシ卸売価格。損益分岐点は7：1とされる。

(注4) 海外情報「豚肉価格下落を受けて国家備蓄のための豚肉の買入・保管を開始（中国）」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_002983.html)を参照されたい。



2021年豚肉輸入量は前年比で大幅に減少

2021年の豚肉輸入量は、前年比16.9%減の357万4385トンと大幅に減少した(表)。12月単月で見ると前年同月比62.1%減、前月比17.4%減の16万3976トンと大幅に減少している。同年の輸入量を輸入先別に見ると、スペイン、ブラジル、オランダからの輸入量は前年を上回る数量となった。一方、豚肉価格の高騰や労働者不足が問題となっている米国や、洪水被害により物流の混乱が発生

したカナダからの輸入量は大幅に減少した。なお、中国国務院は22年1月1日より一部の輸入品に対する輸出入関税率を調整する通知を発表した。これに伴い、豚肉の輸入暫定税率は現行の8%から12%の最恵国税率に戻されることとなった。中国農業科学院によると、国内生産の回復に伴い輸入豚肉の需要は徐々に減少すると見込まれるが、輸入品と国産品との価格差はいまだに輸入品に有利な水準にあることから、合理的な関税率の調整は国内市場の供給を確保するとともに豚肉価格の安定化に効果的であるとしている。

表 主要輸入先別豚肉輸入量の推移

(単位：万トン)

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	前年比 (増減率)
スペイン	23.8	22.0	38.2	93.4	109.8	17.6%
ブラジル	4.9	15.0	22.2	48.1	54.6	13.7%
米国	16.6	8.6	24.5	69.6	39.8	▲42.8%
デンマーク	8.9	7.2	16.4	36.0	35.2	▲2.2%
オランダ	8.6	8.5	16.0	26.5	27.7	4.6%
カナダ	16.7	16.0	17.2	41.1	23.6	▲42.6%
その他	42.3	42.0	64.9	115.8	66.8	▲42.4%
合計	121.7	119.3	199.4	430.4	357.4	▲16.9%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは0203。

(調査情報部 海老沼 一出)

牛乳・乳製品

米 国

生乳供給量の伸び悩みにより乳製品価格が上昇

飼養頭数・生乳生産量ともに減少

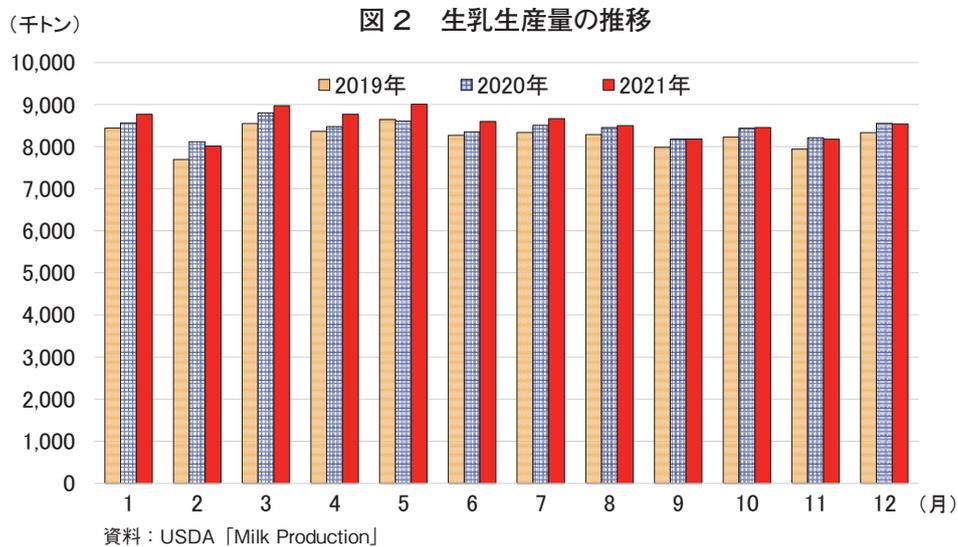
米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）の「Milk Production」によると、2021年12月の乳用経産牛飼養頭数は前年

同月比0.7%減の937万5000頭となった。乳価の上昇に後押しされる形で増加傾向で推移してきた飼養頭数であるが、同年5月をピークに減少に転じ、10月から3カ月連続で前年同月を下回って推移している（図1）。



12月の生乳生産量は、同0.1%減の853万9000トンとなった（図2）。飼料および労働力確保などのコスト上昇が生産者の経営に

影響を及ぼし、一部の生産者では乳牛の淘汰^{とうた}も行われ、生乳生産量の伸びが抑制されている。

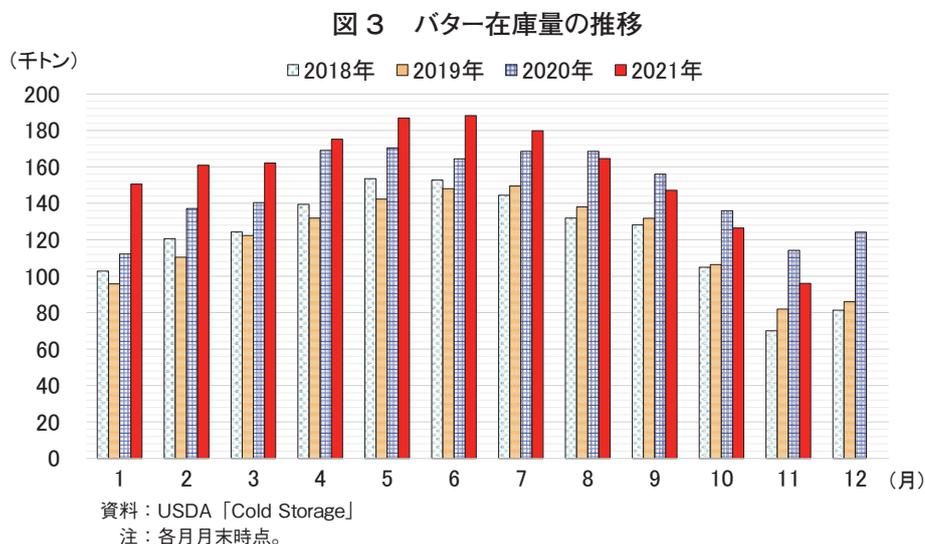


バターおよび脱脂粉乳の価格は上昇

乳製品価格が全体的に堅調に推移している中、バターおよび脱脂粉乳の価格上昇が顕著になっている。

USDA/NASSの「Cold Storage」によると、2021年11月のバターの期末在庫は、前年同月比15.9%減の9万6100トンとなり、同年6月をピークに5カ月連続で減少し

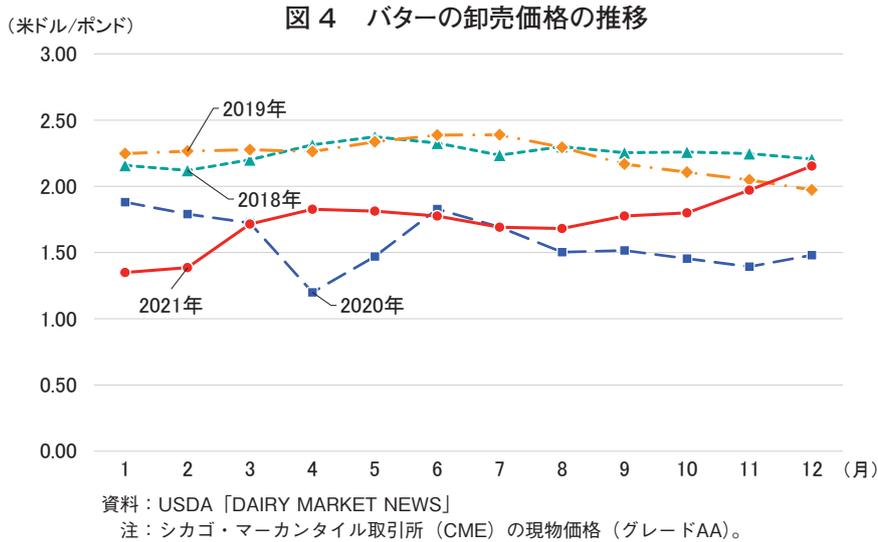
ている（図3）。現地報道によると、生乳生産量が伸び悩んでいる状況下で、チーズの生乳仕向け量が増加していること、また、輸向けやクリスマス需要などの国内外からの需要が堅調であること、さらに、サプライチェーン（供給網）の混乱に伴う不安定な供給などが要因として挙げられている。特に労働力不足は深刻な問題となっており、生産性が大きく損なわれている工場もあるとされている。



また、トラックのドライバー不足も続いており、バター原料に用いられるクリームの出荷に影響を及ぼしているとの報道もある。このような状況を受け、同年後半に入りバターの価格は上昇しており、12月のバター卸売価

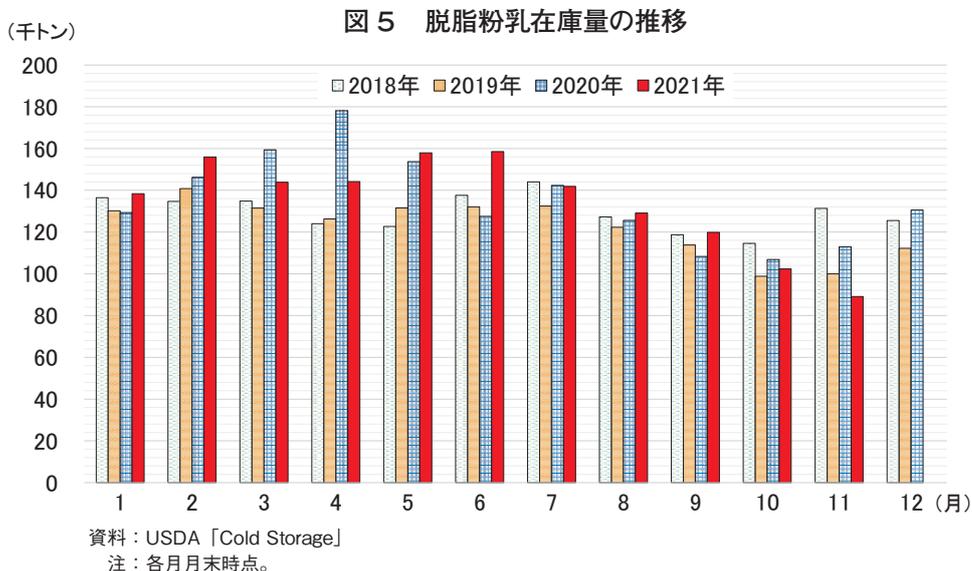
格は、前年同月比45.5%高の1ポンド当たり2.16米ドル（1キログラム当たり552円：1米ドル=116円^(注)）となった（図4）。

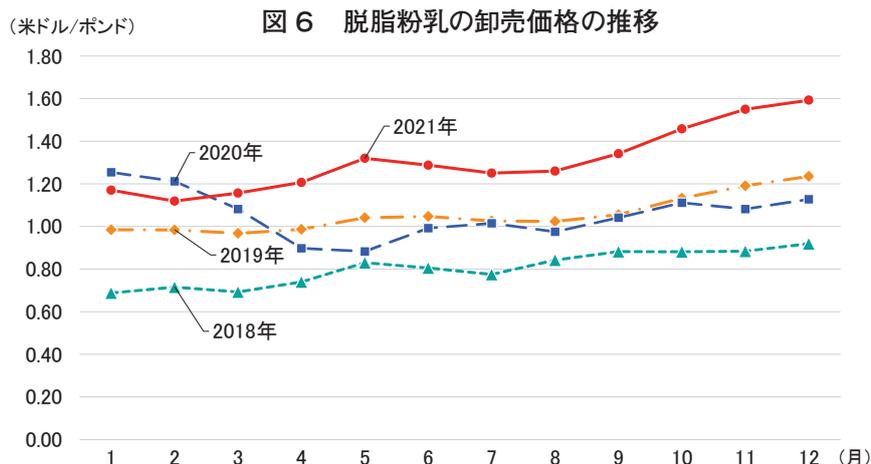
（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2022年1月末TTS相場。



また、脱脂粉乳在庫量も同年6月から減少を続けており、11月の期末在庫量は、前年同月比21.0%減の8万9100トンと大幅に減少している（図5）。在庫の減少は、バター同様、好調な輸出と脱脂粉乳に向けられる生乳量が少なかったことが要因とされている。そのため、脱脂粉乳の卸売価格は同年夏から

上昇を続け、12月は、前年同月比41.2%高の1ポンド当たり1.59米ドル（1キログラム当たり407円）と数年来の高値を記録した（図6）。現地報道では、在庫量の回復には時間がかかるため、今後しばらくの間、価格は堅調に推移すると見込まれている。





資料：USDA「DAIRY MARKET NEWS」
注：ローヒートまたはミディアムのもの、西部FOB価格。

輸出は引き続き好調に推移

米国農務省経済調査局 (USDA/ERS) の

「Dairy Data」によると、2021年11月の乳製品輸出量は引き続き堅調に推移している(表)。

表 主要乳製品輸出量の推移

(単位：千トン)

	2020年 11月	2021年 11月	前年同月比 (増減率)	2021年 (1~11月)	前年同期比 (増減率)
バター	1.4	3.3	144.0% (約2.4倍)	41.1	123.8% (約2.2倍)
脱脂粉乳	62.2	76.4	22.9%	834.9	10.8%
チーズ	23.9	33.5	39.9%	373.6	13.1%
ホエイ	16.8	18.0	7.1%	210.9	7.1%
WPC	12.6	10.7	▲15.2%	127.5	▲2.8%
乳糖	27.6	36.6	32.7%	364.3	4.0%

資料：USDA「Dairy Data」
注：製品重量ベース。

品目別で見ると、脱脂粉乳の輸出量は7万6400トン（前年同月比22.9%増）と大幅に増加している。東南アジア向けが輸出量の増加をけん引しているほか、南米、メキシコ、中米、中国などほとんどの主要市場で大幅に増加している。米国乳製品輸出協会(USDEC)によると、西海岸の港湾の混雑の影響により滞留していた東南アジア向け製品の輸出が行われたことが11月の数量増加に起因しているとしている。

チーズは、日本やメキシコなどの輸出先からの強い需要に加え、競合国などの生産力低下により、3万3500トン（同39.9%増）と大幅に増加した。特にメキシコ向けが好調であったほか、南米諸国、韓国、豪州向けも好調に推移した。また、品目では特にチェダーチーズの輸出量が増加している。USDECによると、日本が加工用チェダーチーズの購入を増やしたことによる大きいとしている。

一方、ホエイの輸出量は1万8000トン(同7.1%増)、タンパク質濃縮ホエイ(WPC)の輸出量は1万700トン(同15.2%減)となった。両品目の主な輸出先である中国向けは大幅に減少したが、東南アジア、日本、韓

国、メキシコ向けなどの増加により相殺されている。USDECによると、米国産WPCの輸出量の減少は、輸出価格が高くなっていることに加え、堅調な国内需要から輸出可能量が少なくなっている可能性を挙げている。

(調査情報部 上村 照子)

E U

生乳取引価格は高水準で推移する一方、生産コストも上昇

生乳出荷量、3カ月連続で前年同月を下回る

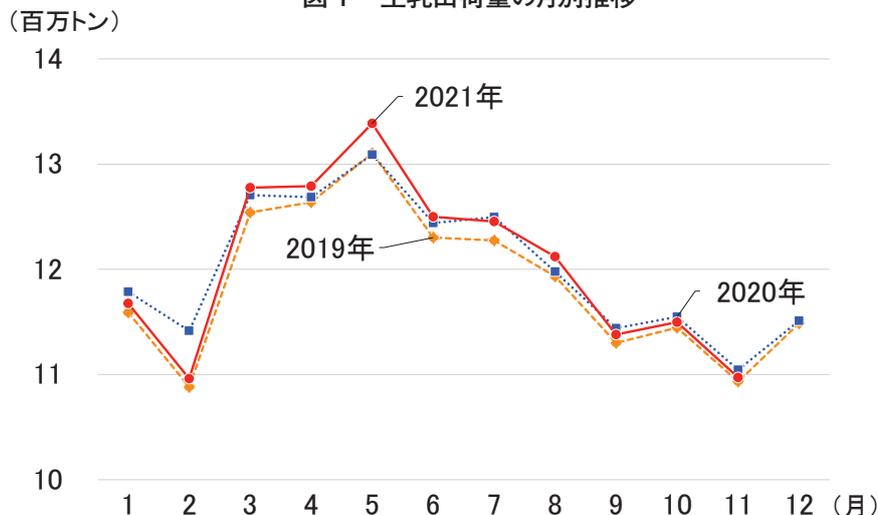
欧州委員会によると、2021年11月の生乳出荷量(EU27カ国)は前年同月をわずかに下回る1097万2390トン(前年同月比0.7%減)となった(図1、表)。

同月の出荷量を国別に見ると、主要生産国の中で中位のイタリア(同7.8%増)、ポーランド(同0.9%増)、アイルランド(同4.9%増)が前年同月を上回った一方で、主要生産

上位3カ国のドイツ(同2.9%減)、フランス(同2.7%減)、オランダ(同4.1%減)は、いずれも前年同月を下回った。

主要生産国では、環境規制強化などの影響により乳用牛飼養頭数が減少していることに加え、飼料価格の高騰などによる生産コストの上昇などもあり、ドイツが6カ月連続、フランスが3カ月連続、オランダが12カ月連続、いずれも前年同月を下回って推移している。

図1 生乳出荷量の月別推移



資料：欧州委員会「Eurostat」
 注1：速報値。
 注2：データが未公表のルクセンブルグは除く。

表 主要生産国別生乳出荷量の推移

(単位：千トン)

	2020年 11月	2021年 11月	前年同月比 (増減率)	2021年 (1~11月)	
				前年同月比 (増減率)	前年同期比 (増減率)
ドイツ	2,519	2,447	▲ 2.9%	29,359	▲ 1.8%
フランス	1,934	1,882	▲ 2.7%	22,226	▲ 1.4%
オランダ	1,104	1,058	▲ 4.1%	12,479	▲ 2.6%
イタリア	940	1,013	7.8%	11,415	5.3%
ポーランド	960	968	0.9%	11,484	0.4%
スペイン	590	590	0.1%	6,855	0.6%
アイルランド	463	486	4.9%	8,762	5.9%
デンマーク	447	444	▲ 0.7%	5,176	▲ 0.3%
ベルギー	348	339	▲ 2.6%	4,019	▲ 1.1%
その他	1,740	1,745	0.3%	20,737	▲ 0.1%
合計	11,045	10,972	▲ 0.7%	132,513	▲ 0.1%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグは除く。

12月の生乳取引価格は、前年同月比15.0%高

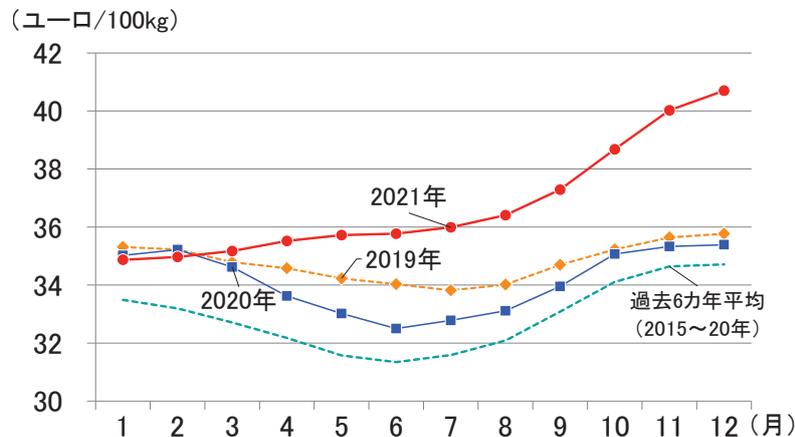
欧州委員会によると、2021年12月のEUの平均生乳取引価格（推定値）は、100キログラム当たり40.7ユーロ（5298円：1ユーロ=130.16円^{注1}）と前年同月比15.0%高となった（図2）。

EU域外からの乳製品需要が旺盛な一方で、21年1~11月のEU全体の生乳生産量が前

年同期並みにとどまっていることもあり、同価格は過去6カ年平均(2015~20年)を6ユーロ(781円)も上回る高い水準となっている。しかし、現地報道によると、生産者は肥料、飼料、燃料などのコストの高騰に直面していることから、現在の乳価でも増産意欲を駆り立てるまでには至っていないとしている。

(注1) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2022年1月末TTS相場。

図2 生乳取引価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」

注1：直近月は推定値。

注2：2019年以降はデータが未公表のルクセンブルグを除く。

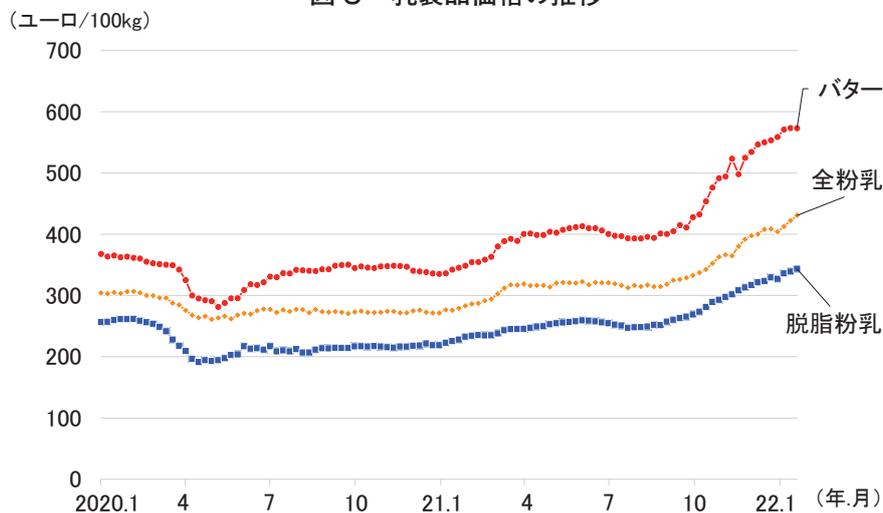
乳製品価格、供給減から上昇傾向で推移

欧州委員会によると、乳製品の堅調な需要に支えられて、価格も上昇傾向で推移している（図3）。直近の1月23日の週平均の乳製品価格は、バターが100キログラム当たり573ユーロ（7万4582円、前年前月同週比66.0%高）、脱脂粉乳が344ユーロ（4万4775円、同50.6%高）、全粉乳が431ユーロ

（5万6099円、同54.3%高）であった。

前述の通り、EUの主要生産国で生乳生産量が減少し、乳製品に仕向けられる原料乳が不足する中、EU域内外の乳製品需要は堅調であることから、乳製品の価格も上昇傾向で推移している。その結果、バターや全粉乳の価格が米国産やオセアニア産と比較して高い水準となっており、輸出への影響が懸念されている。

図3 乳製品価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」

（調査情報部 小林 智也）

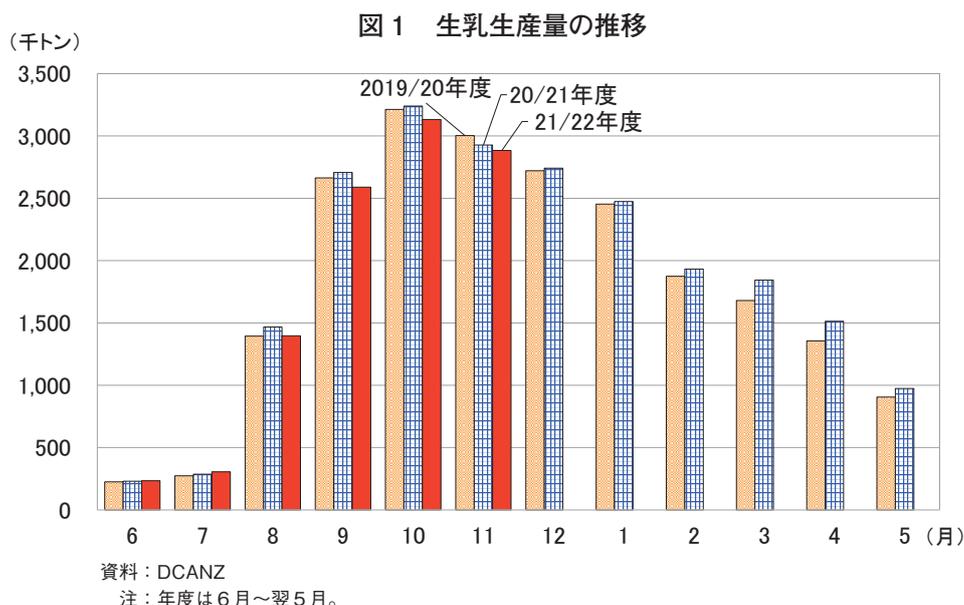
N Z

乳製品取引価格、生乳生産量の減少を受け上昇

生乳生産量は5カ月連続で減少

ニュージーランド乳業協会（DCANZ）によると、2021年12月の生乳生産量は260万3000トン（前年同月比5.0%減）とやや減少し、5カ月連続で前年同月を下回った（図

1）。ニュージーランド証券取引所（NZX）によると、12月に入り、北島を中心に干ばつに近い状況になっている地域が出るようになり、牧草の生育状況が予想よりも良くなかったことなどが背景にあるとしている。



12月の乳製品輸出量、脱脂粉乳とチーズは前年同月比減

ニュージーランド統計局 (Stats NZ) によると、2021年12月の乳製品輸出量は、脱脂粉乳およびチーズが前年同月をかなり大きく下回った一方、全粉乳とバターおよびバターオイルはわずかに上回った(表1、図2)。

品目別に見ると、脱脂粉乳は、フィリピンやマレーシアなど東南アジア向けが前年同月を大幅に上回ったものの、最大の輸出先である中国向けが大幅に落ち込んだことで、全体

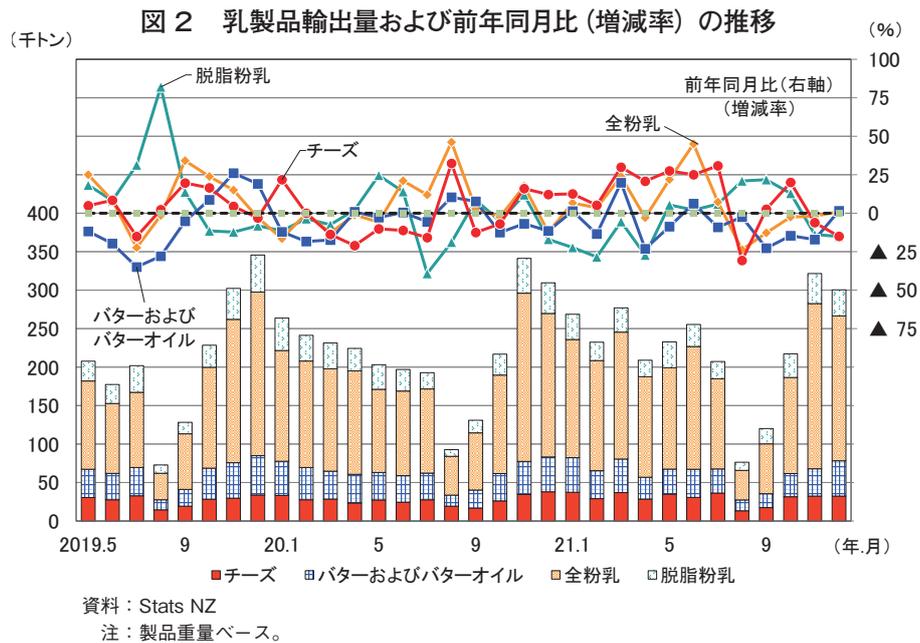
ではかなり大きな減少となった。また、チーズも、主要輸出先である中国向けや豪州向けが大幅に落ち込んだことで、全体では前年同月をかなり大きく下回った。一方、全粉乳は、中国向けが前年同月をかなりの程度下回ったものの、中東向けやアフリカ向けが大幅に上回ったことで、全体ではわずかに増加した。さらに、バターおよびバターオイルは、日本向けや東南アジア向けが前年同月を下回ったものの、中国向けやエジプト向けが増加したことで、全体ではわずかに増加した。

表1 乳製品輸出量の推移

(単位：トン)

品目	2020年 12月	2021年 12月	前年同月比 (増減率)	2021/22年度 (7~12月)	前年同期比 (増減率)
脱脂粉乳	39,887	33,863	▲ 15.1 %	156,376	▲ 1.3 %
全粉乳	186,386	188,343	1.0 %	748,189	▲ 2.5 %
バターおよび バターオイル	45,181	45,906	1.6 %	175,245	▲ 10.5 %
チーズ	38,097	32,373	▲ 15.0 %	163,410	0.3 %

資料：Stats NZ
注1：製品重量ベース。
注2：年度は7月～翌6月。



GDT、主要4品目いずれも前回より上昇

2022年1月18日に開催されたグローバルデイリートレード（GDT：月2回開催さ

れるフォンテラ社主催の電子オークション。乳製品の国際価格の指標とされる。）の1トン当たり平均取引価格は、主要4品目のいずれも前回開催（同年1月5日）時から上昇した（表2、図3）。

表2 GDT乳製品取引価格(2022年1月18日開催)

(単位：米ドル/トン、万円/トン)

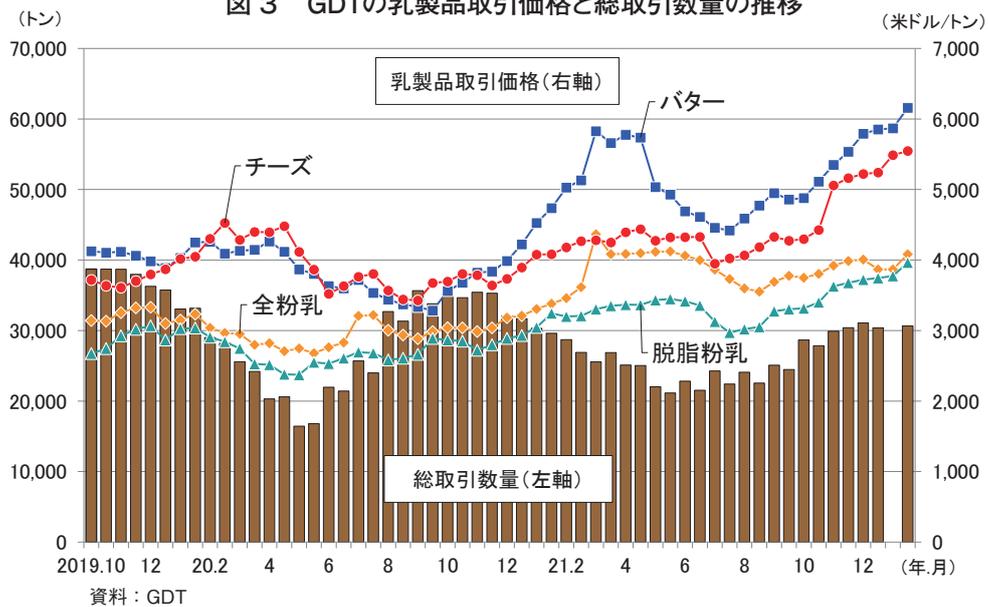
品目	価格		前年比 (騰落率)	前回比 (騰落率)
	米ドル	万円		
脱脂粉乳	3,963	46.0	27.8 %	5.0 %
全粉乳	4,082	47.4	20.5 %	5.6 %
バター	6,158	71.4	38.6 %	4.9 %
チーズ	5,546	64.3	34.6 %	1.1 %

資料：GDT

注1：1米ドル=116円（三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2022年1月末TTS相場）として計算。

注2：前回は1月5日に開催。

図3 GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



品目別の平均取引価格を見ると、脱脂粉乳は、1トン当たり3963米ドル（46万円、前回比5.0%高）となった。米国産に対するメキシコとカナダからの需要や、NZ産に対するアジア諸国からの需要が集中したことを受け、前回からやや上昇した。全粉乳は、中国を中心とする北アジア^(注)からの旺盛な需要にけん引され、同4082米ドル（47万4000円、同5.6%高）と前回からやや上昇した。バターは、北アジアからの需要が最も強かったほか、中東やアフリカからの需要も増加し、同6158米ドル（71万4000円、同

4.9%高）と17年9月以来となる6000米ドル台を記録した。チーズは、同5546米ドル（64万3000円、同1.1%高）と、21年10月開催時以降、8回連続で上昇している。

NZXによると、乳製品取引価格の上昇は、NZのほか、EUや米国などの主要な乳製品輸出国の生乳生産量が減少する中、各国からの買いが旺盛になっていることが要因としている。

(注) ニュージーランド外務貿易省は、中国、日本、香港、韓国、台湾を北アジアとしている。

(調査情報部 廣田 李花子)

飼料穀物

世界

2021/22年度の世界のトウモロコシ期末在庫、前月予測からわずかに下方修正されるも、19/20年度の水準を維持

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2022年1月12日、2021/22年度の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した（表）。

これによると、世界のトウモロコシ生産量は、12億696万トン（前年度比7.5%増、前月比0.1%減）とされ、先月に引き続き史上最高の水準となることが見込まれている。国別に見ると、単収の引き上げによりウクライナが200万トン、作付面積の引き上げにより米国が135万トン上方修正された。一方、ラニーニャ現象による乾燥気候の影響で単収が引き下げられたブラジルが300万トン、同様にアルゼンチンが50万トン、それぞれ下方修正された。

輸出量は、世界全体で2億420万トン（同13.8%増、同0.3%減）とされた。国別に見

ると、生産量で上方修正のあったウクライナが100万トン上方修正された一方、主要輸出国との競合などにより米国が190万トン下方修正された。

輸入量は、世界全体で1億8681万トン（同0.3%増、同0.7%増）とされた。主要生産国の中では、生産量で下方修正のあったブラジルが30万トン上方修正された。

消費量は、世界全体で11億9612万トン（同5.2%増、前月並み）とされた。国別に見ると、エタノール向け需要が引き上げられた米国が203万トン、ウクライナが100万トン上方修正された一方、アルゼンチンが50万トン下方修正された。

この結果、期末在庫は、前月から247万トン下方修正の3億307万トン（同3.7%増）とされたが、19/20年度に近い在庫水準が見込まれている。

表 主要国のトウモロコシの需給見通し (2022年1月12日米国農務省公表)

(単位：百万トン)

国名	2019/20年度	2020/21年度 (推計値)	2021/22年度		
			(12月予測)	(1月予測)	前年度比 (増減率)
米 国					
期首在庫	56.41	48.76	31.41	31.36	▲ 35.7%
生産量	345.96	358.45	382.59	383.94	7.1%
輸入量	1.06	0.62	0.64	0.64	3.2%
消費量	309.55	306.54	313.20	315.23	2.8%
輸出量	45.13	69.92	63.50	61.60	▲ 11.9%
期末在庫	48.76	31.36	37.94	39.11	24.7%
アルゼンチン					
期首在庫	2.37	3.62	1.62	1.12	▲ 69.1%
生産量	51.00	50.50	54.50	54.00	6.9%
輸入量	0.00	0.01	0.01	0.01	0.0%
消費量	13.50	13.50	14.50	14.00	3.7%
輸出量	36.25	39.50	39.00	39.00	▲ 1.3%
期末在庫	3.62	1.12	2.63	2.13	90.2%
ブラジル					
期首在庫	5.31	5.23	5.23	5.23	0.0%
生産量	102.00	87.00	118.00	115.00	32.2%
輸入量	1.65	3.50	1.70	2.00	▲ 42.9%
消費量	68.50	71.00	73.00	73.00	2.8%
輸出量	35.23	19.50	43.00	43.00	120.5%
期末在庫	5.23	5.23	8.93	6.23	19.1%
ウクライナ					
期首在庫	0.89	1.48	0.83	0.83	▲ 43.9%
生産量	35.89	30.30	40.00	42.00	38.6%
輸入量	0.03	0.02	0.02	0.02	0.0%
消費量	6.40	7.10	6.90	7.90	11.3%
輸出量	28.93	23.86	32.50	33.50	40.4%
期末在庫	1.48	0.83	1.45	1.45	74.7%
中 国					
期首在庫	210.18	200.53	205.7	205.7	2.6%
生産量	260.78	260.67	272.55	272.55	4.6%
輸入量	7.58	29.51	26.00	26.00	▲ 11.9%
消費量	278.00	285.00	294.00	294.00	3.2%
輸出量	0.01	0.00	0.02	0.02	-
期末在庫	200.53	205.70	210.24	210.24	2.2%
世界計					
期首在庫	322.37	306.27	292.69	292.23	▲ 4.6%
生産量	1,119.71	1,122.83	1,208.73	1,206.96	7.5%
輸入量	167.77	186.31	185.45	186.81	0.3%
消費量	1,135.81	1,136.87	1,195.88	1,196.12	5.2%
輸出量	172.34	179.36	204.86	204.20	13.8%
期末在庫	306.27	292.23	305.54	303.07	3.7%

資料：USDA/WAOB [World Agricultural Supply and Demand Estimates]

注：各国の穀物年度 世界、米国：9月～翌8月/中国、ウクライナ：10月～翌9月/アルゼンチン、ブラジル：3月～翌2月。

(調査情報部 荒川 侑子)

南米での減産で、大豆期末在庫は1億トンを下回る見込み

米国農務省世界農業観測ボード (USDA/WAOB) および米国農務省海外農業局 (USDA/FAS) は2022年1月12日、2021/22年度の世界の大豆需給予測値を更新した (表)。

これによると、世界の大豆生産量は3億7256万トン (前年度比1.7%増) と前月から922万トン下方修正されたが、引き続き前年度を上回る記録的な生産が見込まれている。最大の生産国であるブラジルは、同国南部での12月から1月初旬の乾燥気候の影響により前月から500万トン下方修正され、また、アルゼンチンも収穫面積と単収の減少から同300万トン下方修正された。さらに、パラグアイも減産が見込まれていることで、主にこれら3カ国の減少分が反映される形となった。一方、米国は単収の上方修正 (0.2ブッシェル増の1エーカー当たり51.4ブッシェル) が行われたことで、前月から28万トン上方修正された。

輸出量は、世界全体で1億7074万トン (同3.6%増) と前月から160万トン下方修正された。最大の輸出国であるブラジルやこれに次ぐ米国は前月対比で据え置かれたが、アルゼンチンが50万トン下方修正された。

輸入量は、世界全体で1億6843万トン (同1.7%増) と前月から135万トン下方修正された。うち、最大の輸入国である中国は1億トン (同0.2%増) と前月対比で据え置かれた。

消費量 (搾油仕向け) は、世界全体で3億2572万トン (同3.2%増) と前月から203万トン下方修正された。最大の消費国である中国は前月対比で据え置かれたが、アルゼンチンが生産量の減少を受けて前月から80万トン下方修正された。

この結果、期末在庫は9520万トン (同4.7%減) と前月から680万トン下方修正され、1億トンを下回ることとなり、19/20年度に近い水準が見込まれている。

表 主要国の大豆需給見通し (2022年1月12日米国農務省公表)

(単位：百万トン)

国名	2019/20年度	2020/21年度 (推計値)	2021/22年度		前年度比 (増減率)
			(12月予測)	(1月予測)	
米国					
期首在庫	24.74	14.28	6.97	6.99	▲ 51.1%
生産量	96.67	114.75	120.43	120.71	5.2%
輸入量	0.42	0.54	0.41	0.41	▲ 24.1%
消費量	58.91	58.26	59.60	59.60	2.3%
輸出量	45.70	61.66	55.79	55.79	▲ 9.5%
期末在庫	14.28	6.99	9.25	9.52	36.2%
ブラジル					
期首在庫	32.47	20.00	27.95	27.95	39.8%
生産量	128.50	138.00	144.00	139.00	0.7%
輸入量	0.55	1.02	0.65	0.45	▲ 55.9%
消費量	46.74	46.75	47.70	47.20	1.0%
輸出量	92.14	81.65	94.00	94.00	15.1%
期末在庫	20.00	27.95	28.25	23.55	▲ 15.7%
アルゼンチン					
期首在庫	28.89	26.65	25.06	25.06	▲ 6.0%
生産量	48.80	46.20	49.50	46.50	0.6%
輸入量	4.88	4.82	4.80	4.50	▲ 6.6%
消費量	38.77	40.16	42.00	41.20	2.6%
輸出量	10.00	5.19	5.35	4.85	▲ 6.6%
期末在庫	26.65	25.06	24.61	22.61	▲ 9.8%
中国					
期首在庫	19.46	26.79	34.48	34.48	28.7%
生産量	18.09	19.60	16.40	16.40	▲ 16.3%
輸入量	98.53	99.76	100.00	100.00	0.2%
消費量	91.50	93.00	97.00	97.00	4.3%
輸出量	0.09	0.07	0.10	0.10	42.9%
期末在庫	26.79	34.48	34.08	34.08	▲ 1.2%
世界計					
期首在庫	114.09	95.60	99.81	99.88	4.5%
生産量	339.88	366.23	381.78	372.56	1.7%
輸入量	165.04	165.61	169.78	168.43	1.7%
消費量	312.42	315.57	327.75	325.72	3.2%
輸出量	165.06	164.73	172.34	170.74	3.6%
期末在庫	95.60	99.88	102.00	95.20	▲ 4.7%

資料：USDA

注1：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月/ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌9月。

注2：消費量は搾油仕向量である。

(調査情報部 横田 徹)

米 国

2021/22年度の米国トウモロコシ期末在庫、生産量の上方修正を受けて、前年度比24.7%増

USDA/WAOBは2022年1月12日、2021/22年度（9月～翌8月）の米国の主要農作物需給予測値を更新した。このうち、同国のトウモロコシ需給見通しは、次の通りである（表）。

生産量は、作付面積の引き上げにより、151億1500万ブッシェル（3億8394万トン^{注1}）、前年度比7.1%増、前月比0.4%増）とわずかに上方修正された。前年度からかなりの程度増加する見込みであり、これまでの統計で最も生産量の多かった16/17年度の151億4800万ブッシェル（3億8477万トン）に迫る水準となっている。

消費量は、主にエタノール向け需要の引き上げにより、124億1000万ブッシェル（3億1523万トン、同2.8%増、同0.6%増）と

わずかに上方修正された。

輸出量は、主要輸出国との競合などにより24億2500万ブッシェル（6160万トン、同11.9%減、同3.0%減）とやや下方修正され、記録的な輸出量となった前年度からかなり大きい減少が見込まれている。

期末在庫は、生産量の上方修正を受けて、15億4000万ブッシェル（3911万トン、同24.7%増、同3.1%増）とやや上方修正された。

この結果、期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）は10.4%（同2.1ポイント増、同0.3ポイント増）とされ、10月予測から引き続き10%台を保っている。

また、生産者平均販売価格は、1ブッシェ

表 米国のトウモロコシの需給見通し（2022年1月12日米国農務省公表）

区分	－単位－	2019/20年度	2020/21年度 (推計値)	2021/22年度			前年度比 (増減率)
				(12月予測)	(1月予測)	参考(換算値)	
作付面積	(百万エーカー)	89.7	90.7	93.3	93.4	37.8 (百万ヘクタール)	3.0%
収穫面積	(百万エーカー)	81.3	82.3	85.1	85.4	34.6 (百万ヘクタール)	3.8%
単収	(ブッシェル/エーカー)	167.5	171.4	177.0	177.0	11.1 (トン/ヘクタール)	3.3%
生産量	(百万ブッシェル)	13,620	14,111	15,062	15,115	383.94 (百万トン)	7.1%
輸入量	(百万ブッシェル)	42	24	25	25	0.64 (百万トン)	4.2%
期首在庫	(百万ブッシェル)	2,221	1,919	1,236	1,235	31.36 (百万トン)	▲ 35.6%
総供給量	(百万ブッシェル)	15,883	16,055	16,323	16,375	415.94 (百万トン)	2.0%
国内消費量	(百万ブッシェル)	12,186	12,068	12,330	12,410	315.23 (百万トン)	2.8%
飼料など向け	(百万ブッシェル)	5,900	5,602	5,650	5,650	143.52 (百万トン)	0.9%
食品・種子・その他工業向け	(百万ブッシェル)	6,286	6,466	6,680	6,760	171.71 (百万トン)	4.5%
うちエタノール向け	(百万ブッシェル)	4,857	5,028	5,250	5,325	135.26 (百万トン)	5.9%
輸出量	(百万ブッシェル)	1,777	2,753	2,500	2,425	61.60 (百万トン)	▲ 11.9%
総消費量	(百万ブッシェル)	13,963	14,821	14,830	14,835	376.82 (百万トン)	0.1%
期末在庫	(百万ブッシェル)	1,919	1,235	1,493	1,540	39.11 (百万トン)	24.7%
期末在庫率	(%)	13.7	8.3	10.1	10.4		2.1ポイント増
生産者平均販売価格	(米ドル/ブッシェル)	3.56	4.53	5.45	5.45	24.9 (円/kg)	20.3%

資料：USDA/WAOB [World Agricultural Supply and Demand Estimates]

注1：年度は各年9月～翌8月。

注2：1エーカーは約0.4047ヘクタール。

ル当たり5.45米ドル（632円。1 キログラム当たり24.9円：1 米ドル=116円^(注2)）と前月対比で据え置かれた。

(注1) 1 ブッシェルを約25.401キログラムとして農畜産業振興機構が換算。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2022年1 月末日TTS相場。

(調査情報部 荒川 侑子)

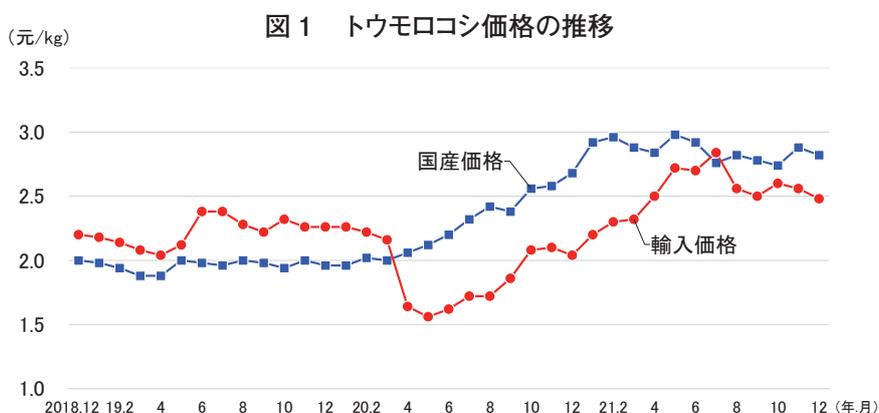
中国

国産トウモロコシおよび大豆の価格動向

トウモロコシ、新穀の供給増で国産価格は弱含みで推移と予想

中国農業農村部は1月21日、「農産物需給動向分析月報（2021年12月）」を公表した。この中で、国産トウモロコシの短期的な価格動向について、販売のピークを迎えて新穀の

供給が大幅に増加することで、安定かつ弱含みで推移すると予想している（図1）。また、トウモロコシの生産コスト上昇などから資金回収に向けて農家の販売意欲が高いものの、工場向け需要の回復から企業による在庫拡充が意欲的に行われていることで、価格は一定の範囲内にとどまるとしている。



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、中国東北部から広東省黄埔港までの運賃込み2級黄トウモロコシ価格。

注2：輸入価格は、米国メキシコ湾積出し2級黄トウモロコシの広東省黄埔港引渡し価格（関税割当数量内：課税後）。

主要養豚生産地である中国南部向け飼料原料集積地となる広東省黄埔港到着の輸入トウモロコシ価格（関税割当数量内：1%の関税+25%の追加関税）は、12月が1キログラム当たり2.48元（45円：1元=18円^(注)）と前月からわずかに下落した。同月の国産トウモロコシ価格（東北部産の同港到着価格）同2.82元（51円）に比べ同0.34元（6円）

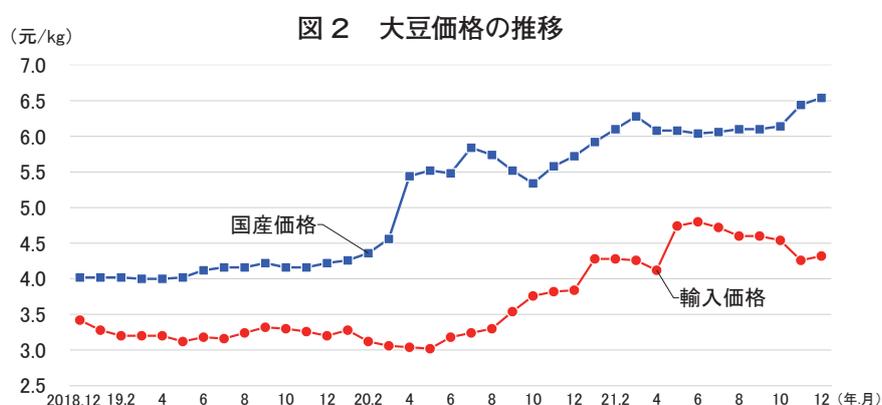
安となり、前月からわずかに価格差が広がっている。

一方、関税割当数量を超えた輸入トウモロコシ価格（65%の関税+25%の追加関税）は同4.00元（72円）と前月から同0.1元（2円）下落した。国産トウモロコシ価格に比べ同1.18元（21円）高いが、前月より価格差は縮まっている。

このような中で、中国のトウモロコシ輸入量は引き続き高い水準にある。21年1～11月のトウモロコシ輸入量は2702万トン（前年同期比2.0倍）、同輸入額は前半の穀物価格の上昇を反映し同2.9倍の75億7600万米ドル（8788億円：1米ドル=116円^{（注）}）と報告されている。主な輸入先は米国（輸入量全体の72.5%）、ウクライナ（同27.1%）、ロシア（同0.3%）となった。

大豆、国産価格は引き続き高水準と予想

大豆については、21年の国産大豆の収穫が終了し、作付面積、単収、生産量が前年に比べて減少と報じられている中で、価格高を見越して農家は販売を控える傾向が強まっており、市場への供給量が限られることで国産大豆価格は上昇傾向にあるとしている（図2）。



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成
 注1：国産価格は、山東省入荷価格。
 注2：輸入価格は、山東省青島港引渡し価格（課税後）。

主産地である黒竜江省の搾油用向け国産大豆平均取引価格は、12月が1キログラム当たり5.02元（90円、前年同月比8.6%高）、同じく食用向け同価格は同6.12元（110円、同21.8%高）と前年に比べて高い水準にある。また、大豆の国内指標価格の一つとなる山東省の国産大豆価格は、同6.54元（118円、同14.2%高）と同じく高い水準にある。国産大豆価格の上昇を受けて、下落基調にある輸入大豆との価格差は12月が1キログラム当たり2.22元（40円）と前月からさらに拡大した。

今後の見通しについて同分析月報では、生産者からの供給量が限られる中で、国内で散発的な発生が確認されるCOVID-19の影響に伴う物流や輸送コストの上昇などから、国

産大豆価格は引き続き高値で推移するとしている。

このような中で、中国の大豆輸入量は引き続き高い水準にある。21年1～11月の大豆輸入量は8765万トン（前年同期比5.5%減）とやや減少傾向にあるが、同輸入額は前半の穀物価格の上昇を反映し同33.1%増の482億7500万米ドル（5兆6000億円：1米ドル=116円^{（注）}）と報告されている。主な輸入先は、ブラジル（輸入量全体の63.9%）、米国（同29.9%）、アルゼンチン（同3.9%）となった。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2022年1月末日TTS相場。

（調査情報部 横田 徹）